輪之内町地域公共交通計画

ずっと住み続けられるまちの一翼を担う

公共交通ネットワークの維持・構築

令和４年３月

輪之内町

目　　次

第1章 計画の概要 1

1.1 計画策定の趣旨・位置付け 1

1.2 計画の区域 1

1.3 計画の期間 1

1.4 計画の位置づけ 1

1.5 輪之内町地域公共交通会議の構成員と役割分担 2

第2章 地域及び公共交通の現状 3

2.1 地域の現状 3

2.2 公共交通の状況 8

第3章 連携計画の評価 16

3.1 連携計画の概要 16

3.2 事業実施状況 16

3.3 目標達成状況 18

3.4 連携計画の評価 18

第4章 利用者及び住民ニーズの把握 19

4.1 調査概要 19

4.2 調査結果まとめ 20

第5章 地域公共交通の課題 29

課題１　多様な移動ニーズへの対応 29

課題２　利用しやすくなる情報提供の充実・環境の整備 29

課題３　住民意識の醸成 30

課題４　持続可能な公共交通の確保 30

課題５　まちづくりとの連携 30

第6章 計画の基本的な考え方 31

6.1 上位・関連計画における公共交通の位置づけ 31

6.2 計画の基本理念（将来像） 32

6.3 計画の基本方針と目標 33

6.4 目指す公共交通ネットワーク 34

第7章 目標達成のために行う事業 **36**
7.1 事業と実施主体 36
基本方針１　多様なニーズに対応するサービスの提供 37
基本方針２　利用促進に向けた取り組みの推進 39
基本方針３　持続可能な公共交通の構築 44
7.2 事業スケジュール 46

第8章 計画の達成状況の評価 **47**
8.1 評価指標の設定 47
8.2 計画の進行管理と評価スケジュール 48

第1章 計画の概要

1.1 計画策定の趣旨・位置付け

輪之内町では、2014年度(平成26年度)に地域公共交通総合連携計画（以下、連携計画という。）を策定し、「住んでいて良かった、これからもずっと住み続けたいまちづくり」の一翼を担う公共交通の構築を目指して、路線再編事業（町内線の廃止、昼間時のデマンドバスの導入など）や利用促進のための事業を実施してきました。事業により一定の成果は得られているものの、さらなる利便性向上やより効率的な運行が求められています。

一方、周辺市町においても地域公共交通の再編が行われており、各市町の自主運行バスどうしの乗り継ぎ利便性の向上や地域間を結ぶ広域路線の見直しなどが必要となっています。また、交通事業を取り巻く社会経済情勢の変化（運転士不足や高齢化）や情報通信技術の進展への対応など新たな課題も発生しています。

そのため、現状分析を行ったうえで、改めて地域交通に関する基本的な方針、目標、目標達成のための事業を検討し、次のステージに向けた計画として、「輪之内町地域公共交通計画（以下、本計画という。）」を策定します。

1.2 計画の区域

計画の区域は、輪之内町全域とします。

※原則的に町境を区域界としますが、隣接市町をまたがる路線は計画の対象とします。

1.3 計画の期間

計画期間は、2022年度(令和4年度)から2026年度(令和8年度)の5年間とします。

1.4 計画の位置づけ

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき策定するものです。また、連携計画の次期計画とし、輪之内町第六次総合計画の下位計画として位置付けます。

1.5 輪之内町地域公共交通会議の構成員と役割分担

構成員	役割
町	・住民の移動手段の確保 ・関係機関との調整
運輸支局	・地域の公共交通のあり方に関する指導
県	・地域間幹線系統、広域バス路線、市町村バスへの財政支援 ・広域バス路線の調整
道路管理者	・交通安全、運行の円滑性確保
交通事業者	・安全で快適な輸送サービスの提供 ・ノウハウを活かした企画提案
公安委員会	・運行ルート、停留所設置についての助言・指導
学識者	・地域の合意形成を図る上での助言
区長会（住民）	・積極的な公共交通の利用 ・住民、利用者ニーズの代弁

第2章 地域及び公共交通の現状

2.1 地域の現状

2.1.1 人口

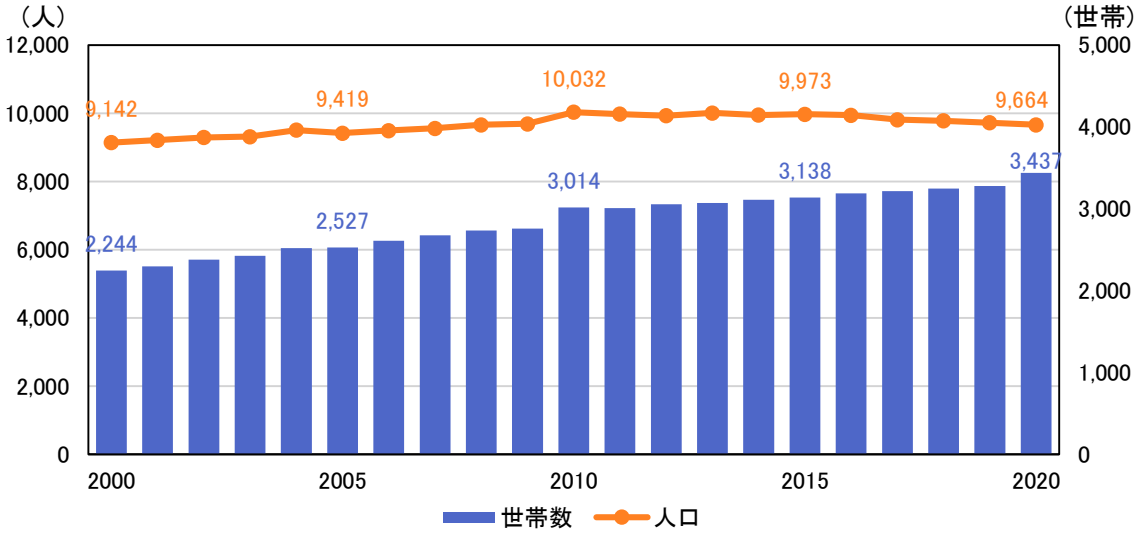
(1) 人口・世帯数の推移

人口は、2010年(平成22年)の10,032人をピークに、2016年(平成28年)までほぼ横ばいで推移していました。2017年(平成29年)以降は減少傾向にあり、2020年(令和2年)には9,664人となっています。

世帯数は、増加傾向が続いており、2020年(令和2年)に3,437世帯となっています。

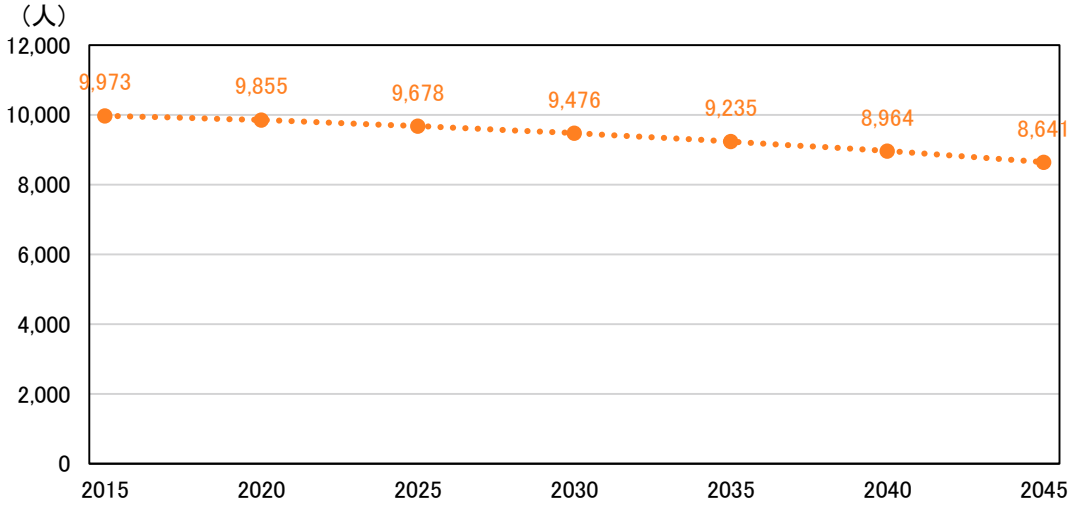
国立社会保障・人口問題研究所による推計結果によると、今後も町の人口は減少していくと推計されています。

図表 2-1　人口・世帯数の推移



データ：岐阜県人口動態統計調査(2000年～2020年)

図表 2-2　将来人口推計



データ：国立社会保障・人口問題研究所(2018年推計)

※2015年は国勢調査による実績値

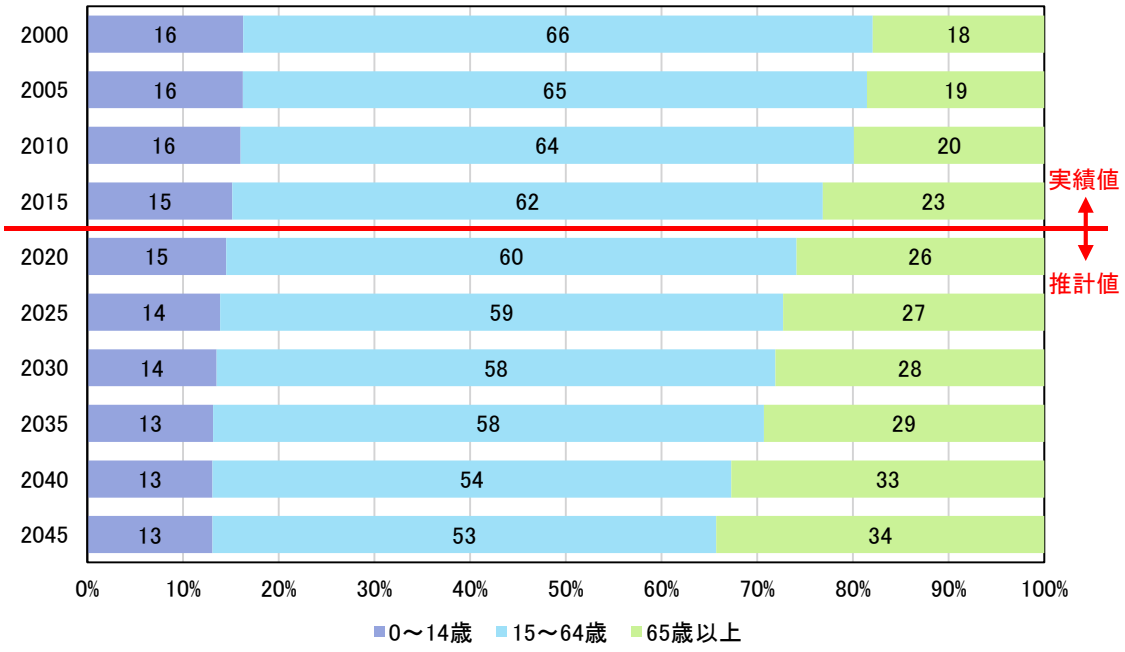
(2) 年齢3区分別人口の割合の推移

2015年(平成27年)の高齢化率は23%であり、これは岐阜県平均よりも低くなっています。

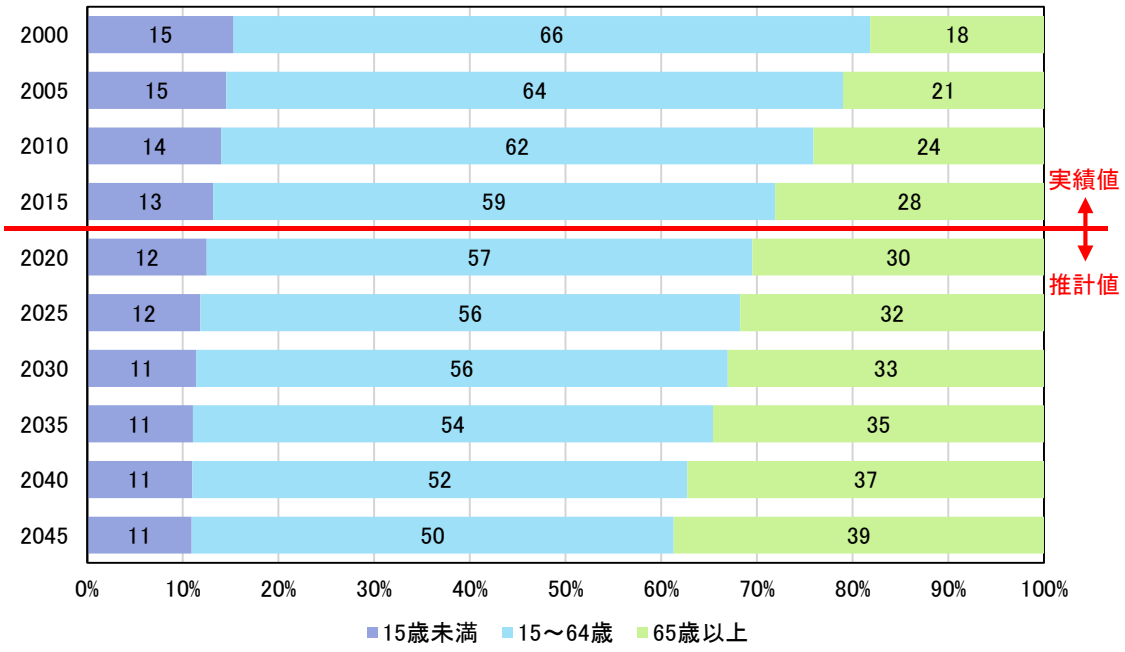
国立社会保障・人口問題研究所によると、今後65歳以上の割合（高齢化率）は徐々に高くなり、2045年(令和27年)には34%となると推計されています。

図表 2-3　年齢3区分別人口割合の推移

輪之内町



岐阜県



データ：国勢調査

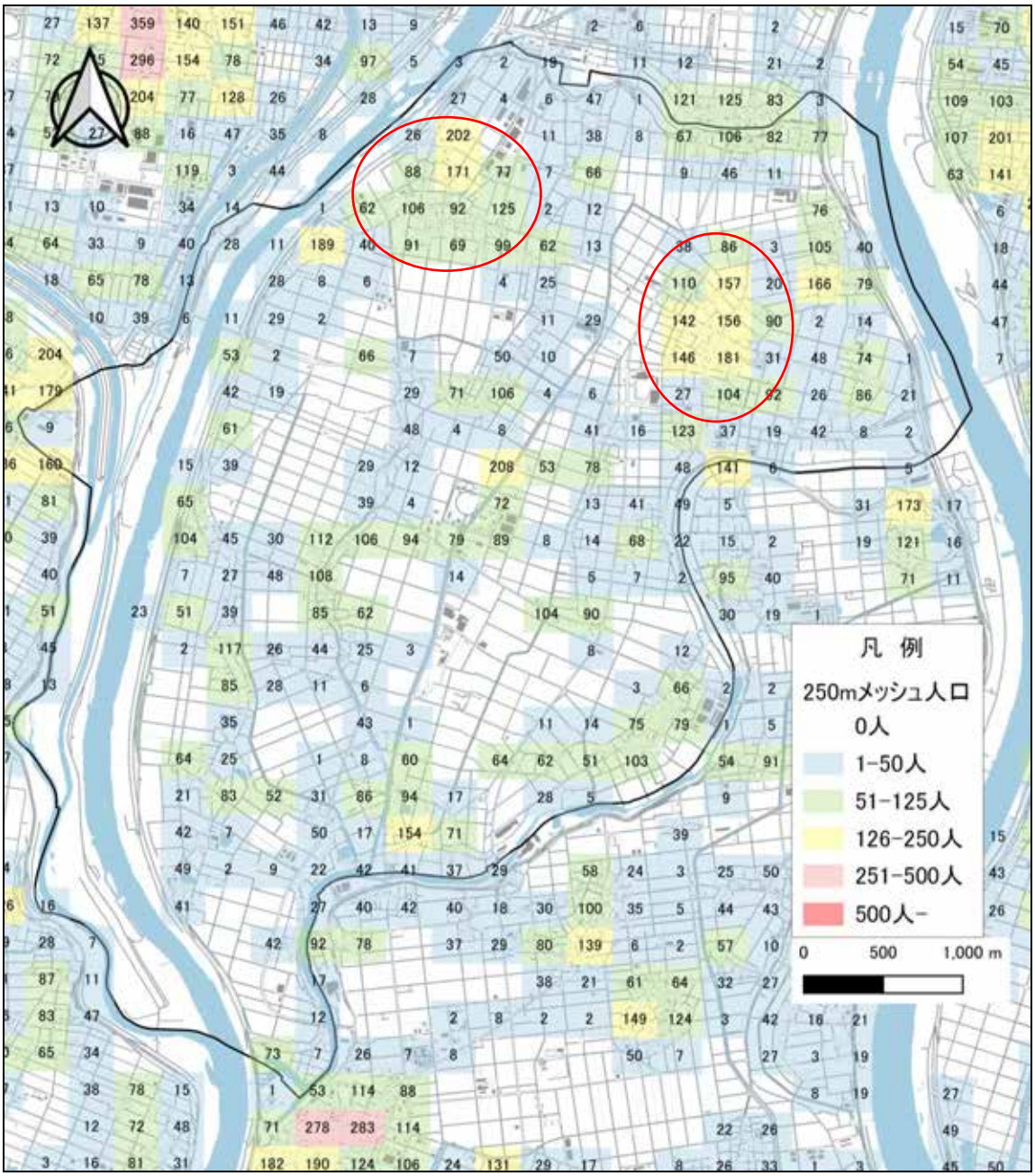
国立社会保障・人口問題研究所(2018年推計)

(3) 人口分布

1) 総人口

大藪地区と福東地区の一部に人口が集中しています。

図表 2-4　人口分布（総人口）



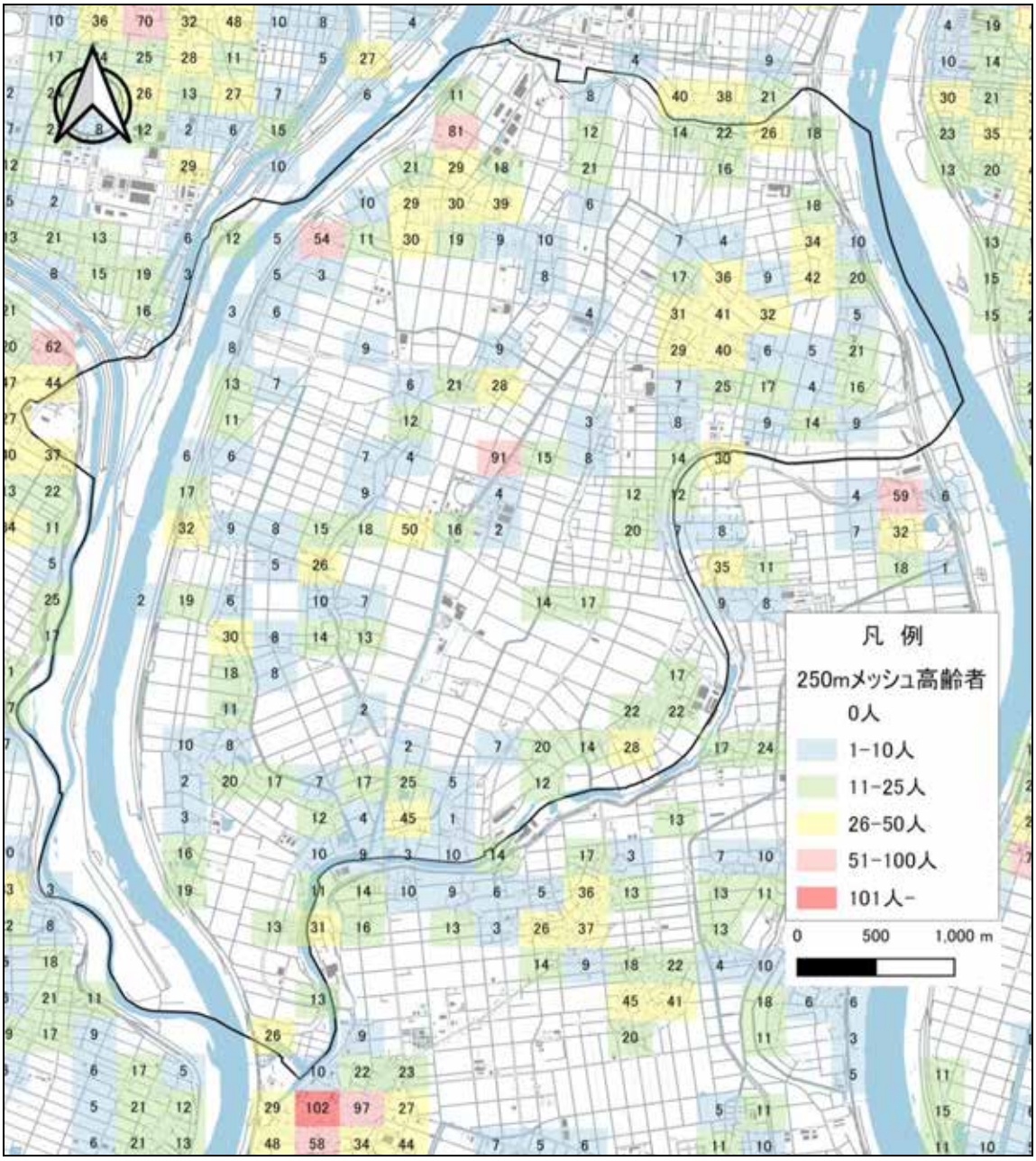
データ：2015年国勢調査

2) 高齢者（65歳以上）

総人口の多い地区において、高齢者数も多くなっています。

輪之内町内で特に高齢者人口の多いメッシュ（赤色）は、介護老人保健施設等の高齢者の入居施設がある箇所です。

図表 2-5　人口分布（65歳以上）



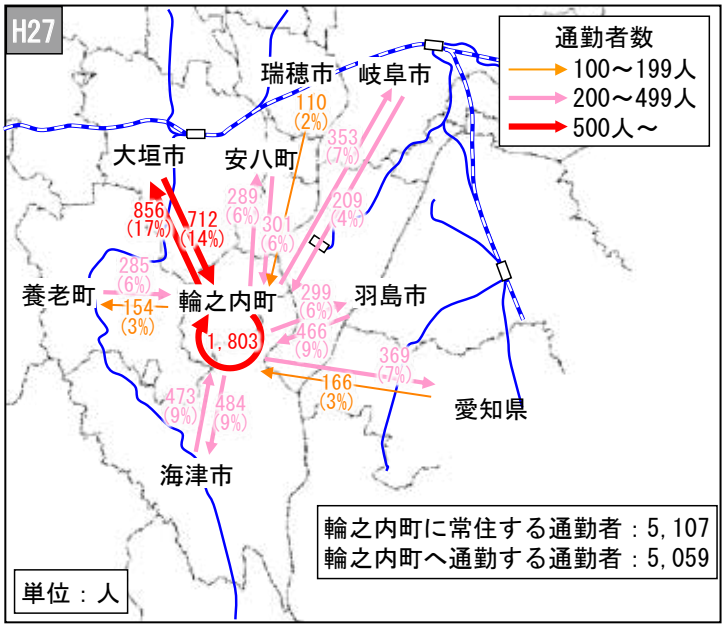
データ：2015年国勢調査

2.1.2 人の動き

(1) 通勤

2015年(平成27年)に輪之内町に常住する通勤者は、町内への通勤が1,803人と最も多く、町外では大垣市が856人と最も多くなっています。

図表 2-6　通勤先・通勤流動

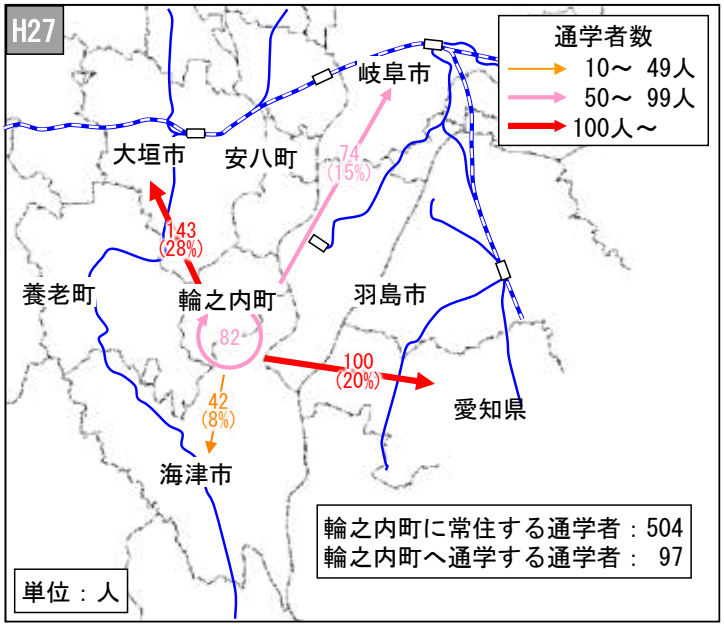


データ：国勢調査

(2) 通学

2015年(平成27年)は、輪之内町に常住する通学者は、大垣市への通学が143人と最も多く、次いで愛知県（100人）、岐阜市（74人）が多くなっています。

図表 2-7　通学先・通学流動



データ：国勢調査

※輪之内町から出ている矢印の%は、輪之内町に常住する通勤・通学者数に対する割合、他市町から輪之内町へ向かう矢印の%は、輪之内町へ通勤・通学する通勤・通学者数に対する割合を表す。

※15歳以上の通学者数のため、一部中学生を含む。

2.2 公共交通の状況

2.2.1 公共交通の概況

町内には、営業路線である名阪近鉄バス輪之内線、海津線、自主運行バスである輪之内羽島線、南北線、輪之内町デマンドバスの計5路線が運行しています。

路線名	概要
名阪近鉄バス 輪之内線	輪之内文化会館から大垣駅前を結ぶ地域間幹線系統であり、通勤・通学、通院、買い物など様々な目的で利用されています。
名阪近鉄バス 海津線	海津市から輪之内町塩喰川西地区を経由して大垣駅前を結ぶ地域間幹線系統であり、通勤・通学、通院、買い物など様々な目的で利用されています。
輪之内町自主運行バス 輪之内羽島線	岐阜羽島駅と輪之内文化会館を結ぶ路線であり、通勤・通学等に利用されています。
輪之内町コミュニティバス 南北線	安八温泉からコミバス今尾を結ぶ路線であり、海津市にある海津明誠高校への通学路線として運行を開始しました。
輪之内町デマンドバス ※地域内フィーダー系統	昼間時間帯に町内全域及び一部町外を運行するデマンド型交通であり、通院、買い物など様々な目的で利用されています。

地域内フィーダー系統とは

・バスの停留所、鉄軌道駅、海港及び空港において、複数の市町村をまたがる基幹的な公共交通である地域間交通ネットワークと接続する支線となる系統のことです。

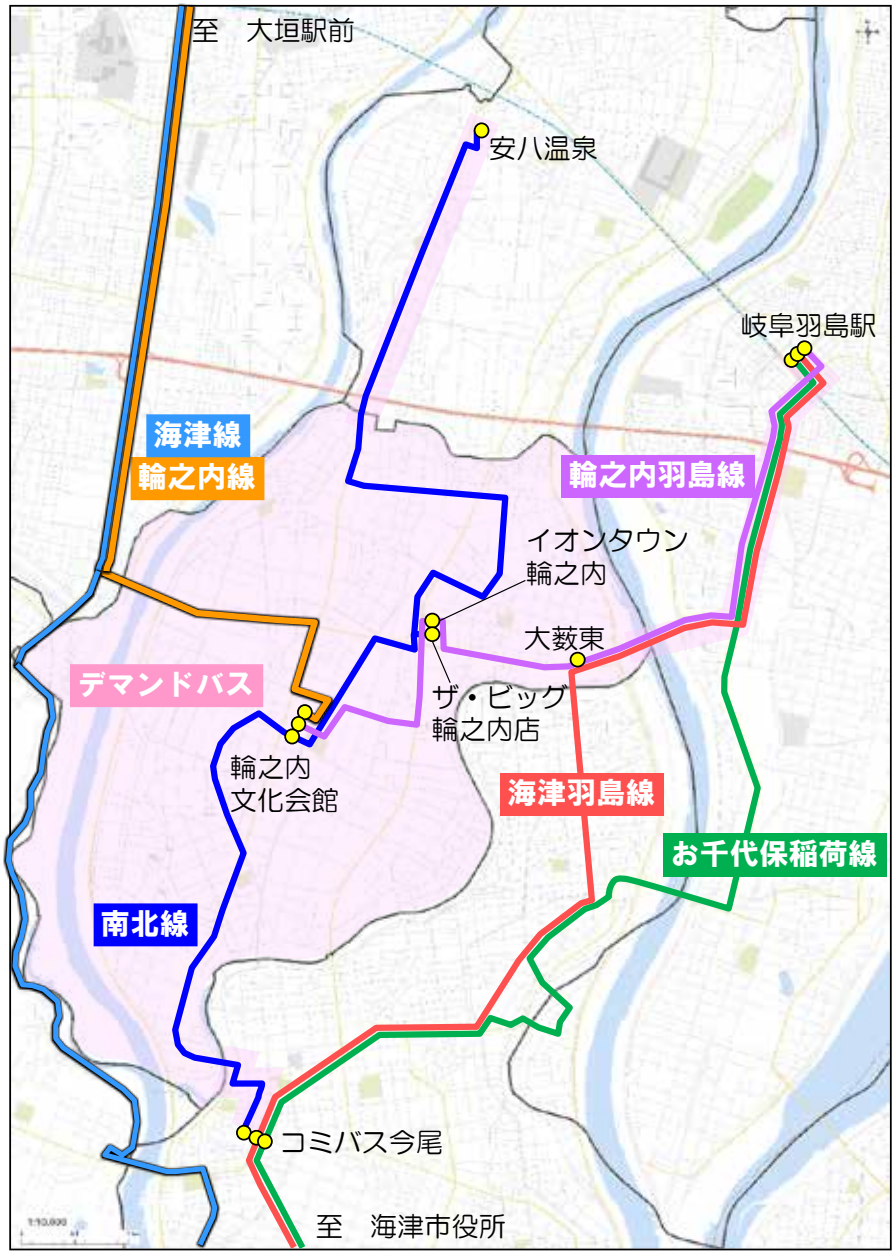
・本町においては、地域間幹線バス系統である輪之内線に接続する支線として、「輪之内町デマンドバス」を設定しています。

地域公共交通（地域内フィーダー系統）の確保維持に係る必要性

・地域公共交通ネットワークを確保するためには、地域特性や実情にあった公共交通サービスを提供する必要があります。

・輪之内町デマンドバスは、昼間時に高齢者等の移動制約者の交通手段として不可欠なものです。さらなる利便性向上を図りながらも、できるかぎり財政負担の軽減を図り、便利で効率的な公共交通を構築することを目的に、地域公共交通確保維持事業を活用し、今後も維持していく必要があります。

図表 2-8　輪之内町関連路線図

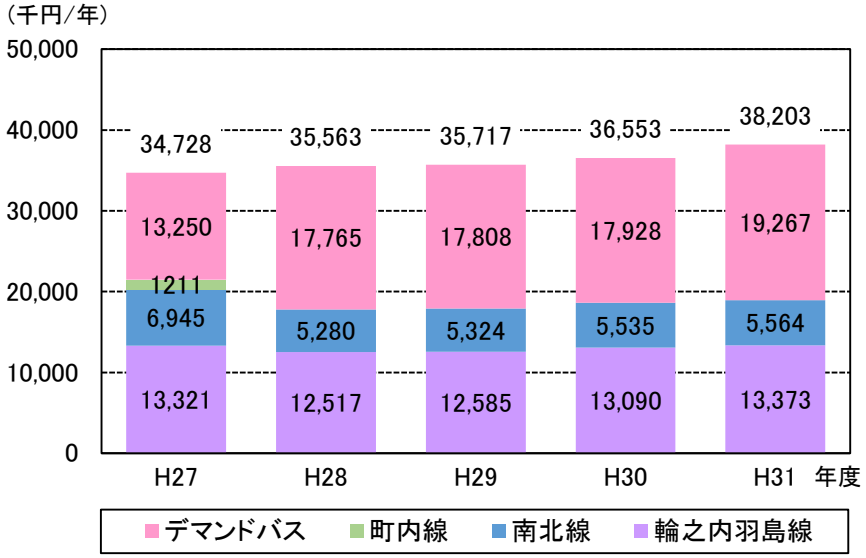


図表 2-9　サービス水準

方面	公共交通機関	路線名	運行本数（平日）（本）					運行時間		運賃（円）	通勤定期 通学定期（円/月）
				1日	朝	昼	夕	始発	終発		
大垣駅	路線バス	輪之内線	往路	17	4	8	5	6:50	20:45	520	22,460
			復路	17	4	9	4	6:50	21:25		18,720
		海津線	往路	19	4	8	7	6:30	21:55	610	26,350
			復路	19	7	9	3	6:14	19:09		21,120
安八温泉	路線バス	南北線	往路	1	1	0	0	7:12	－	100	－
			復路	3	0	1	2	16:57	18:57		2,400
岐阜羽島駅	路線バス	輪之内羽島線	往路	5	3	1	1	6:30	17:51	250	10,800
			復路	6	2	0	4	7:30	20:25		9,000
町内及び周辺市町	デマンドバス	輪之内町デマンドバス	往路	－				8:30～16:30		200	－
			復路								－

輪之内線運賃：大垣駅前～輪之内文化会館
海津線運賃：大垣駅前～船附
※朝：～9時，昼：9時～17時，夕：17時～

図表 2-10　経費負担の推移



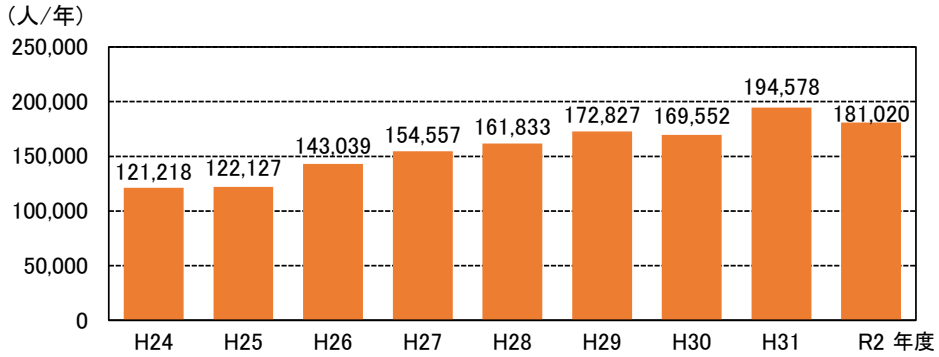
2.2.2 公共交通の利用状況

(1) 輪之内線

・利用者数は近年増加傾向にあり、2020年度(令和2年度)の利用者数は181,020人です。

・2019年(平成31年)4月より実施している高校生通学定期券補助の申請者は28人です。
(2020年(令和2年)12月現在)

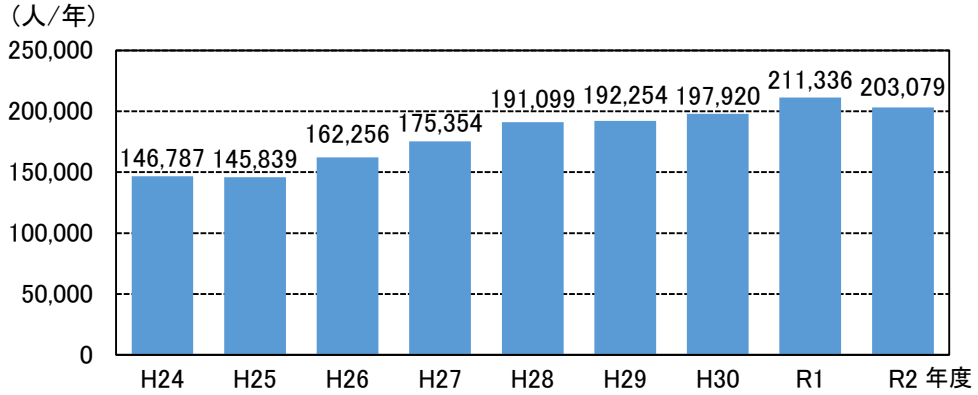
図表 2-11　輪之内線利用者数の推移



(2) 海津線

・利用者数は近年増加傾向にあり、2020年度(令和2年度)の利用者数は203,079人です。

図表 2-12　海津線利用者数の推移



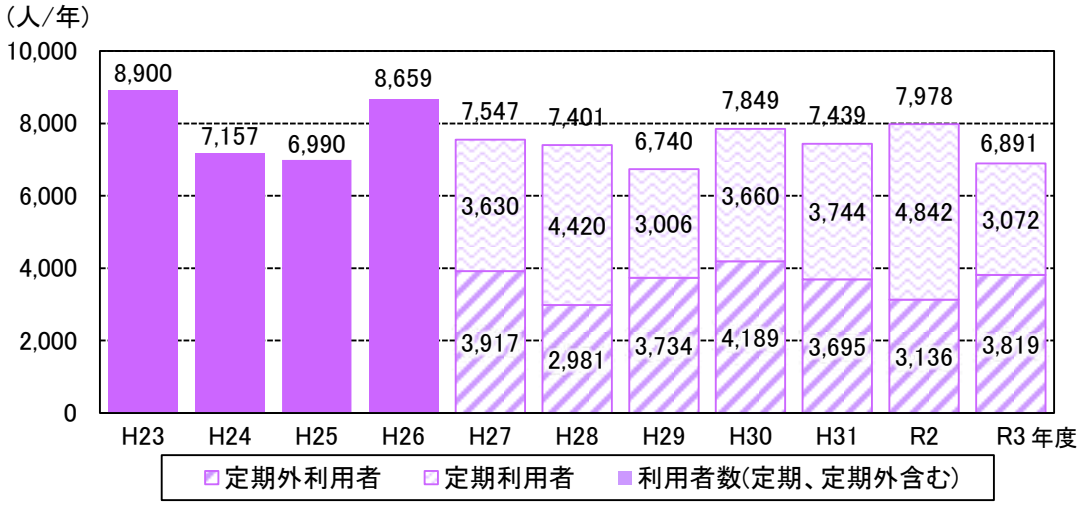
(3) 輪之内羽島線

・2015年(平成27年)1月の再編以降、利用者数は横ばいで推移しています。

・2021年度(令和3年度)の利用者数は6,891人で、定期利用者の減少により前年度に比べて利用者が減少しています。

・2019年(平成31年)4月より実施している高校生通学定期券補助の申請者は6人です。(2020年(令和2年)12月現在)

図表 2-13　輪之内羽島線利用者数の推移

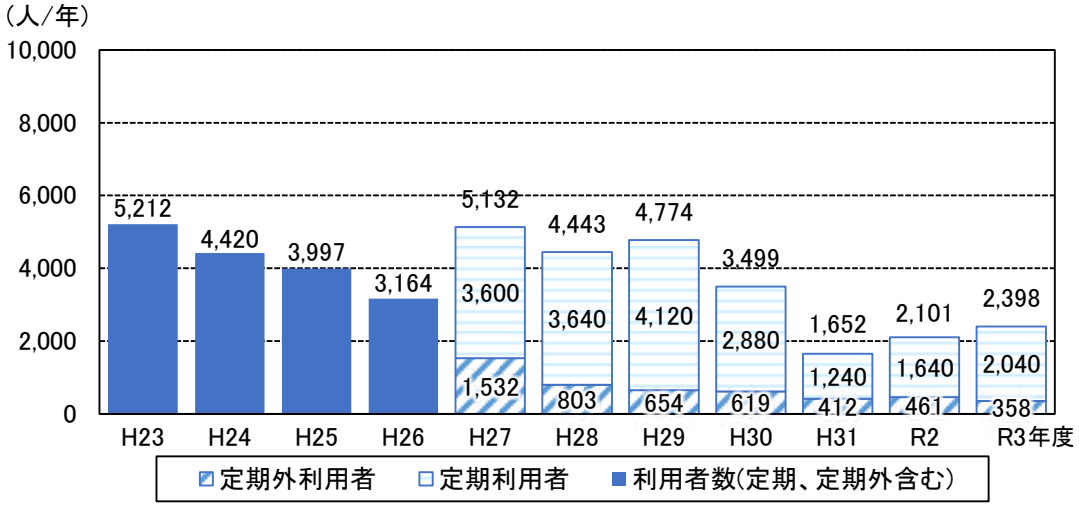


(4) 南北線

・2015年(平成27年)1月の再編以降、特に2019年度(平成31年度)に利用者が大きく減少しましたが、2020年度(令和2年度)以降は定期利用者が微増傾向にあります。

・2019年(平成31年)4月より実施している高校生通学定期券補助の申請者はいません。(2020年(令和2年)12月現在)

図表 2-14　南北線利用者数の推移



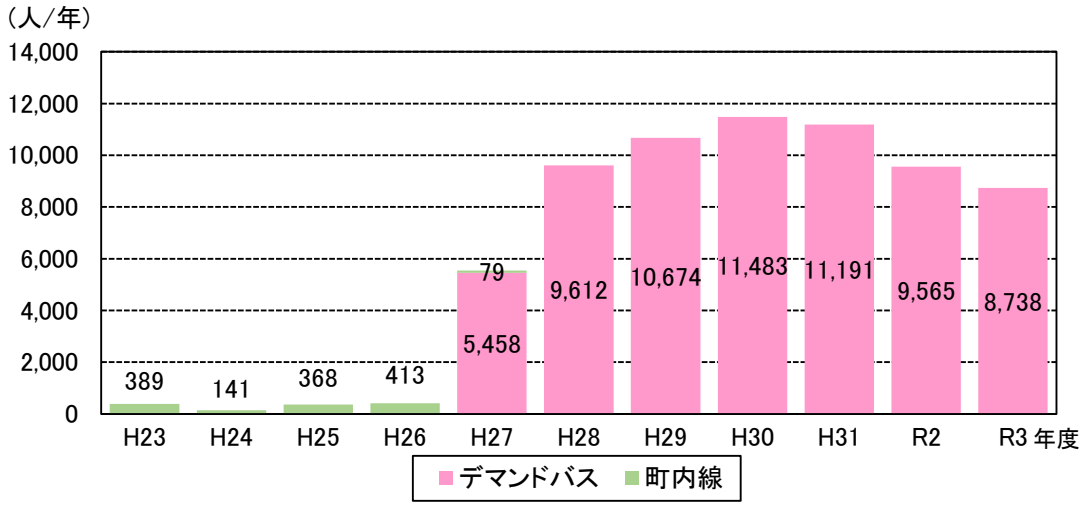
(5) 輪之内町デマンドバス

・運行開始以降、利用者数は増加傾向が続いていましたが、2019年度(平成31年度)に初めて前年度の利用者数を下回りました。

・また、2020年度(令和2年度)は新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛や目的施設の休館などにより、利用者が大きく減少し9,565人となり、2021年度(令和3年度)はさらに減少が続き、8,738人となっています。

・運行時間帯が昼間時であるため、主な利用者は70歳以上の高齢者となっています。

図表 2-15　町内線・輪之内町デマンドバス利用者数の推移



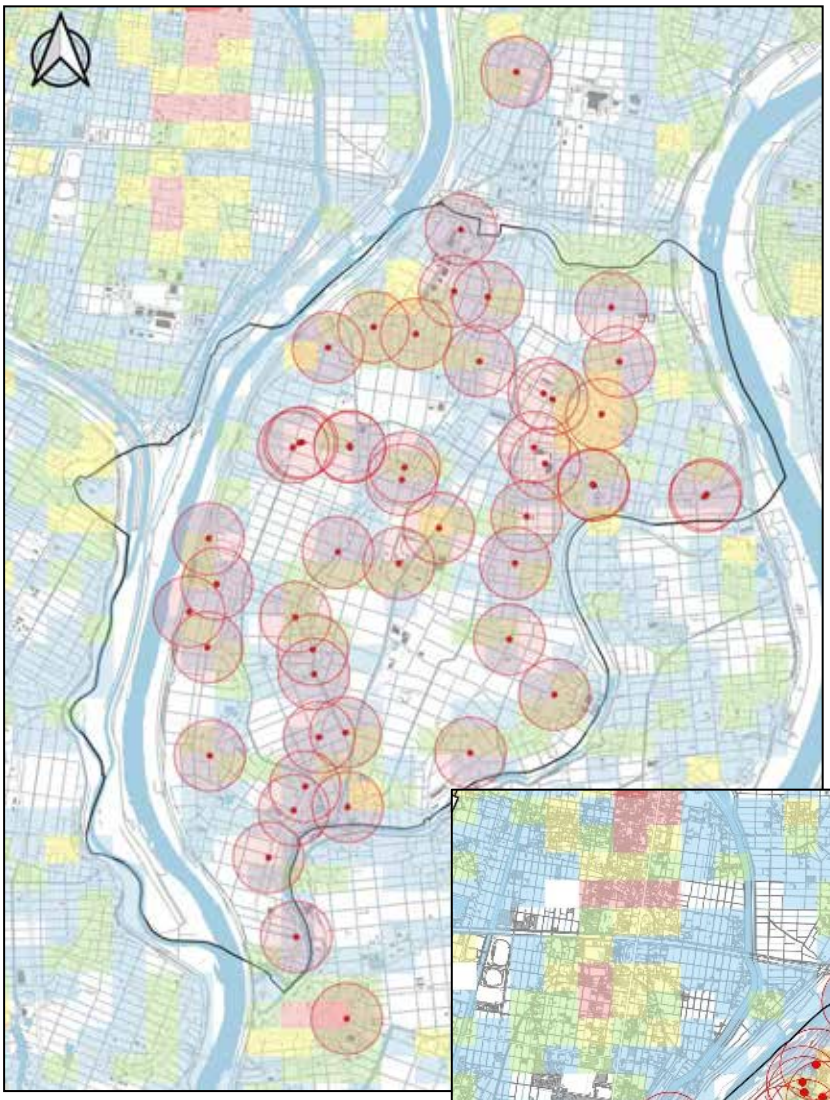
・新型コロナウイルスの流行に伴う外出自粛や休校等の影響により、公共交通の利用者数は大きく減少しています。

・感染リスクを低減させるため、車内消毒や換気等を徹底し、安心してご利用いただけるよう努めています。

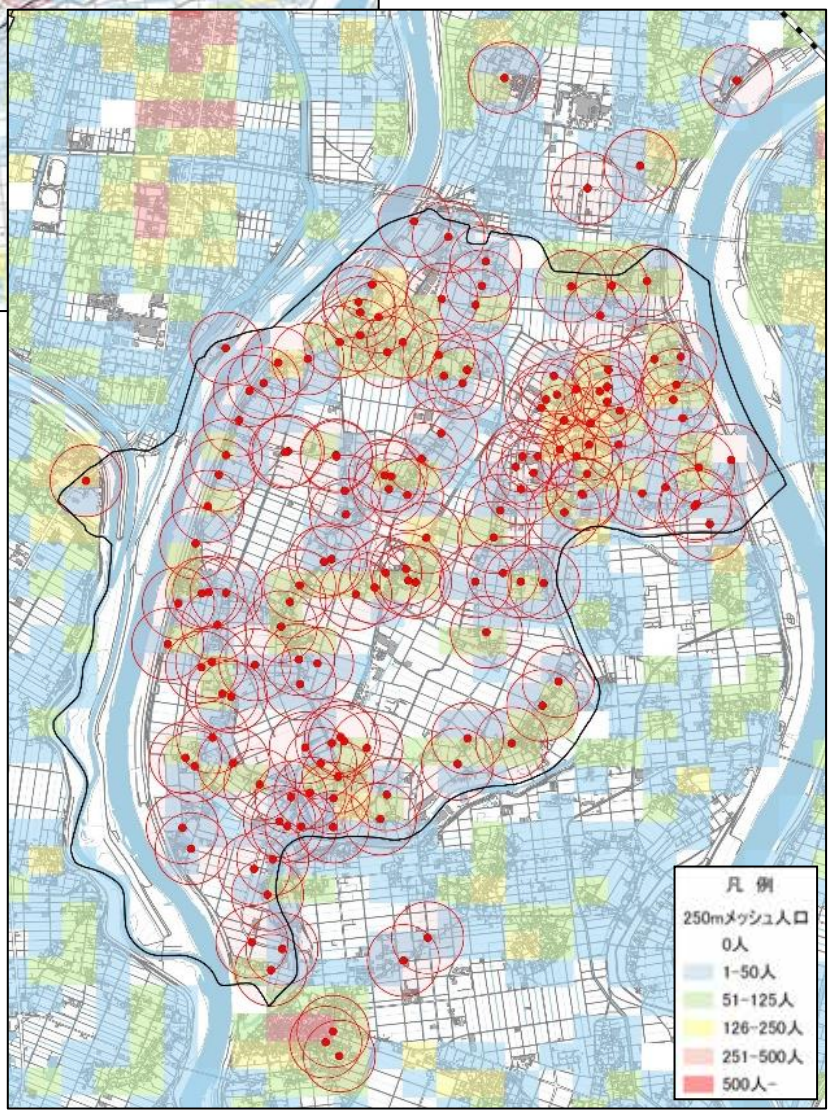
2.2.3 停留所勢力圏（再編前・再編後）

・2015年(平成27年)1月の再編時にデマンドバス停留所をこまめに設置したこと、それ以降も住民要望に応じて停留所の追加設置を行ってきたことにより、停留所から半径300mに含まれる人口は98%となっています。

図表 2-16　停留所勢力圏



再編前
（2014年（平成26年）12月時点）



再編後
（2021 年（令和 3 年）9 月時点）

2.2.4 福祉輸送・外出支援サービス

・町内の福祉施設では、施設による利用者向けの輸送サービスが提供されていますが、町独自での福祉輸送サービスはありません。

・岐阜県タクシー協会では、身体障がい者や療育手帳所持者を対象にタクシー運賃の助成を行っています。

図表 2-17　岐阜県タクシー協会によるタクシー運賃助成の内容

制度概要	身体障がい者及び療育手帳所持者の方が一人で、または介護人と一緒に乗車した区間の運賃についてタクシーメーターの表示額の１割を岐阜県タクシー協会が負担
助成対象	身体障がい者及び療育手帳所持者の方

第3章 連携計画の評価

3.1 連携計画の概要

町では、「住んでいて良かった、これからもずっと住み続けたいまちづくり」の一翼を担う公共交通の構築を目指して、2014年度（平成26年度）に地域公共交通総合連携計画を策定し、路線再編事業や利用促進事業を実施してきました。

図表 3-1　輪之内町地域公共交通総合連携計画の概要

計画区域	輪之内町全域
計画期間	2014年度（平成26年度）～2019年度（令和元年度）
基本方針	1　移動制約者の外出機会創出のための生活交通の確保 2　通学ニーズに合った公共交通の確保 3　幹線系統のサービス水準向上と乗り継ぎの改善 4　地域で支え合う持続可能な公共交通の構築 5　公共交通の利用促進に向けた取り組みの推進

3.2 事業実施状況

連携計画に記載の事業の実施状況は、以下のとおりです。未実施の事業は、本計画においても継続して取り組みます。

事業	実施状況	実施・検討内容
路線再編事業		
①町内の運行方式の変更	実施済み	町内線からデマンドバスに変更しました。
②輪之内線：大垣駅行き始発便の繰り上げ	未実施	ニーズはあるものの、始発便繰り上げにかかる経費とのバランスが取れず、連携計画期間内の実施は見送りました。 今後も利用状況やニーズを鑑み、検討していきます。
③－１ 輪之内羽島線：輪之内羽島線と海津羽島線の統合	未実施	海津市と協議を行ってきましたが、連携計画期間内には実施できませんでした。 今後も海津市と継続して協議していきます。
③－２ 輪之内羽島線：イオンタウン停留所の統一	実施不可	商業施設と協議を進めたところ、当該駐車場の舗装構成では大型車走行が望ましく無かったことから、実施できませんでした。
④－１ 南北線：夕方の便の増便	実施済み	コミバス今尾から海津明誠高校最寄りバス停までを結ぶ、海津市コミュニティバスに合わせて、夕方２便を３便に増便しました。
④－２ 南北線：運行ルートの見直し	検討の上実施せず	運行ルート見直しによる時間短縮のメリットに比べ、停留所から集落が離れるというデメリットが大きいため、現状を維持すると判断しました。

事業	実施状況	実施・検討内容
⑤新たな幹線系統の検討：墨俣・穂積駅方面への幹線系統の導入	**検討の上実施せず**	安八穂積線（安八温泉～穂積駅前）の導入検討時に、輪之内文化会館からの運行も検討しましたが、十分な需要が見込めなかったため、導入を見送りました。 墨俣・穂積駅方面へは、安八温泉で輪之内町デマンドバスを接続させることでアクセスを確保しています。
利用促進のための事業		
①待合空間の提供・電話予約への協力依頼	実施済み	デマンドバス停留所を設置した医療施設や商業施設等に協力を依頼しました。現在も新たに設置する場合は、協力を依頼しています。
②利用券の発行（一定額以上買い物をした方への割引券配布）	**検討の上実施せず**	デマンドバスのパスポート、高齢者用の割引回数券を導入したことで、複数回利用時の運賃負担が十分軽減されていることから、利用券の発行は実施ししないこととしました。
③往復割引	**検討の上実施せず**	デマンドバスのパスポート、高齢者用の割引回数券を導入したことで、複数回利用時の運賃負担が十分軽減されていることから、往復割引は実施ししないこととしました。
④公共交通ガイドブックの作成・配布	実施済み	公共交通ガイドの作成後は、ダイヤ改正等にあわせて適宜修正を行っています。「持ち運びにくい」という意見を受けて、Ａ６サイズのポケット版も作成・配布しました。
⑤公共交通に関する住民懇談会の開催	実施済み	路線再編の前後に集中して実施しました。その後も住民より要望があれば随時対応しています。
⑥小学生を対象とした体験学習	実施済み	小学生対象の学習講座である「わのうち未来塾」に参加される際、デマンドバスを利用してもらっています。また、現在バスに関する出前講座や親子で乗車して頂けるようなイベントを検討しています。
地域で公共交通を支え合うための事業		
①協賛金制度の導入	未実施	協賛金制度の仕組みが構築できず、実施できませんでした。今後は公共交通を地域全体で守っていくものという意識を醸成していきます。

3.3 目標達成状況

・公共交通利用者数の割合（月に1回以上公共交通を利用する人の割合）は、目標値よりも大きく上昇しています。
・公共交通の年間利用者数は、輪之内羽島線の利用者数増加及びデマンドバスの利用者数により目標値を達成していますが、南北線利用者数は基準値よりも減少しています。
・停留所勢力圏人口カバー率は、デマンドバス停留所を住民と考え設置したこと、必要に応じて追加設置を進めてきたことにより、大きく上昇しました。
・公共交通に対する満足度は、全体では目標値を達成できなかったものの、公共交通をふだんから利用している人からは高い評価を得ています。

	基準値	目標値 (H31)	実績値 (R1)	実績値 (R2)
1　町民に対する公共交通利用者数の割合	3.1%	4.0%	5.7%	—
2　公共交通の年間利用者数 　輪之内羽島線 　南北線 　町内線／輪之内町デマンドバス	11,718人 7,157人 4,420人 141人	13,000人	20,282人 7,439人 1,652人 11,191人	19,644人 7,978人 2,101人 9,565人
3　停留所勢力圏人口カバー率	57%	90%	98%	98%
4　公共交通に対する満足度 　定期的に利用している 　利用していない	61%	73%	67% 87% 66%	—

3.4 連携計画の評価

・デマンドバスの導入等の路線再編及び利用促進策の展開による効果で、公共交通を利用する方が増加したと考えられます。
・輪之内線は、大垣市内への通勤・通学、買い物、通院やJR東海道本線を利用したより遠方への移動にも利用されています。利用者数が増加傾向にあることから、サービスの継続・拡充によりさらに利用者数が増えていく可能性があります。
・岐阜羽島駅へとつながる輪之内羽島線は、利用者が微増しており、引き続き移動ニーズに対応したサービスを、海津市コミュニティバス海津羽島線と連携しながら提供していく必要があります。
・南北線利用者数は基準値よりも減少しており、減少の要因の解明、利用者増加に向けた新たな取り組みが必要です。
・未実施事業の実現に向けて、改めて利用者ニーズを精査し、新たな計画での実施事業として整理していく必要があります。

第4章 利用者及び住民ニーズの把握

4.1 調査概要

本計画の策定にあたり、各種調査を実施し、住民の公共交通の利用実態や移動ニーズ等を把握しました。

統計データ等	人口、通勤・通学流動 運行事業者提供データ（路線別輸送人員、運行状況等）
ログデータ	予約時間帯、利用者層、乗降停留所等
乗降調査	●バス利用者ヒアリング調査 目的：輪之内町自主運行バスの利用状況の把握 対象：輪之内羽島線、南北線 方法：対象路線利用者に対してヒアリングを実施 ●輪之内文化会館乗降調査 目的：輪之内文化会館で路線バス・デマンドバスに乗降する利用者数・属性・端末交通手段を把握 対象：輪之内文化会館停留所利用者 方法：調査員の目視によるカウント
アンケート	●住民アンケート 目的：日常生活における公共交通の利用状況、サービスに対する満足度、改善要望等の把握 対象：輪之内町に在住の方 方法：広報折込による全戸配布(1世帯につき調査票3枚)、郵送回収 回答数：1,017票
	●利用者アンケート 目的：デマンドバスのサービスに対する満足度、改善要望等の把握 対象：デマンドバス利用者 方法：デマンドバスに町職員が同乗し、利用者に直接聞き取り 回答数：24票
	●中学生保護者アンケート 目的：高校選択時に公共交通利便性が与える影響、公共交通利用に抵抗を感じる点、各方面へのバスサービス改善要望 対象：輪之内中学校　３年生 方法：中学校に配布、回収を依頼 回答数：65票
	●高校生アンケート 目的：ふだんの通学方法、南北線の直通運行に対する利用意向の把握 対象：海津明誠高校生全学年のうち、輪之内町、安八町、大垣市墨俣町居住者 方法：高校に配布、回収を依頼 回答数：84票
意見交換	●ワークショップ 目的：バスに乗るのが楽しくなる、利用しやすくなる方法について住民からのアイデアを募る 開催時期：2021年(令和3年)8月に小学校区ごとに1回開催 ※福東地区は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止。アンケートで意見を収集。

4.2 調査結果まとめ

4.2.1 輪之内線

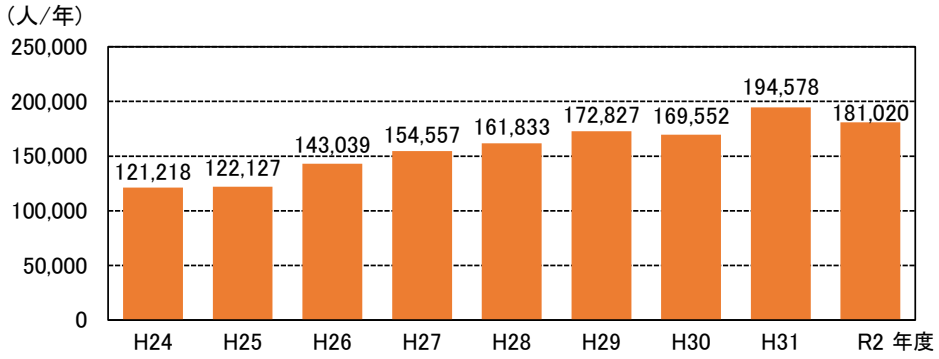
・大垣駅へつながる地域間幹線バス路線であり、利用者数は増加傾向にあります。

・平日は1時間に1便程度運行していますが、住民アンケートでは通勤・通学時間帯、昼間時ともに増便要望が多くなっているほか、最終便の繰り下げ要望が多くなっています。ワークショップでは、平日の大垣駅発最終便を1時間繰り下げる要望がありました。しかし、連携計画策定時には、始発便の繰り上げ要望が高くなっていました。

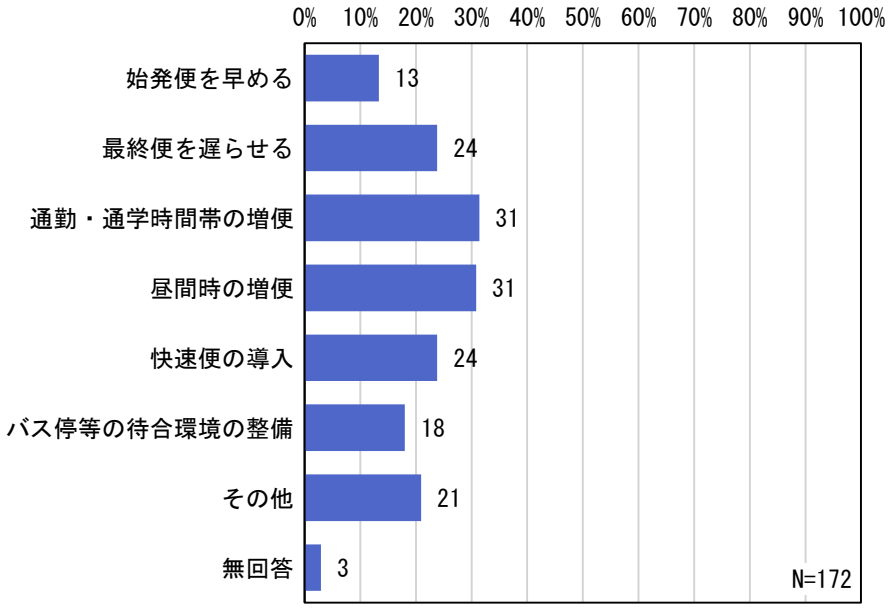
・大垣方面は通勤・通学流動も多く、サービス向上によりさらなる利用者の増加が期待できます。

・中学生アンケートによると、大垣駅方面へのバスサービスで改善してほしい点としては「通学時間帯の増便」が最も多くなっています。

図表 4-1　利用者数の推移



図表 4-2　大垣方面へのサービスの改善要望（住民アンケート）



図表 4-3　通勤・通学流動（H27国勢調査）

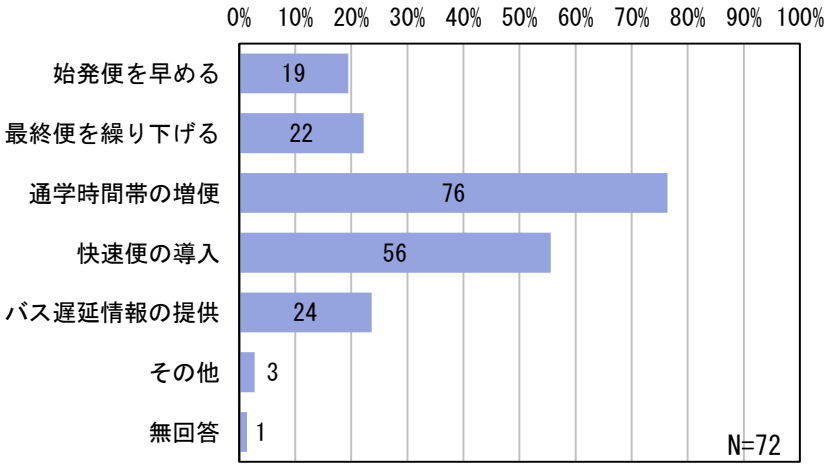
通勤

	流出	流入	流出%	流入%
輪之内町	1,803	1,803	35	36
岐阜市	353	209	7	4
大垣市	856	712	17	14
羽島市	299	466	6	9
瑞穂市	62	110	1	2
海津市	484	473	9	9
養老町	154	285	3	6
安八町	289	301	6	6
愛知県	369	166	7	3
就業者数	5,107	5,059	100	100
町外	3,304	3,256	65	64

通学

	流出	流入	流出%	流入%
輪之内町	82	82	16	85
岐阜市	74		15	0
大垣市	143		28	0
海津市	42		8	0
愛知県	100		20	0
通学者数	504	97	100	100
町外	422	15	84	15

図表 4-4　大垣駅方面への改善要望（中学生アンケート）

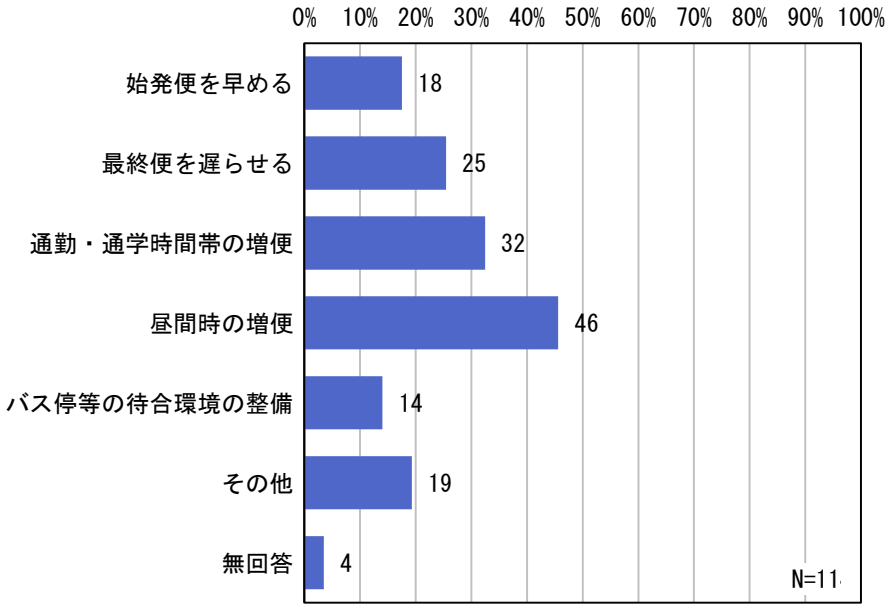


4.2.2 輪之内羽島線

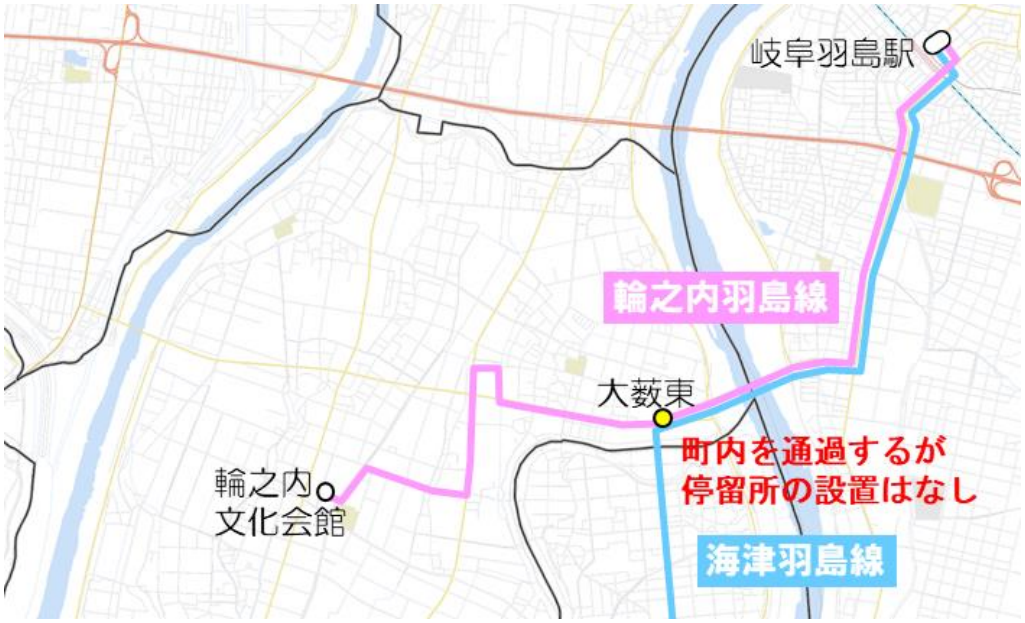
・デマンドバスの導入に伴い朝夕のみの運行となっていますが、住民アンケートでは昼間時の増便要望が多くなっています。

・現在「大薮東」停留所には輪之内羽島線のバスのみが停車していますが、同停留所を通過している海津市コミュニティバス海津羽島線を停車させ、両路線のバスを利用できるようにしてほしいという要望があります。

図表 4-5　岐阜・羽島方面へのサービスの改善要望（住民アンケート）



図表 4-6　路線図



4.2.3 南北線

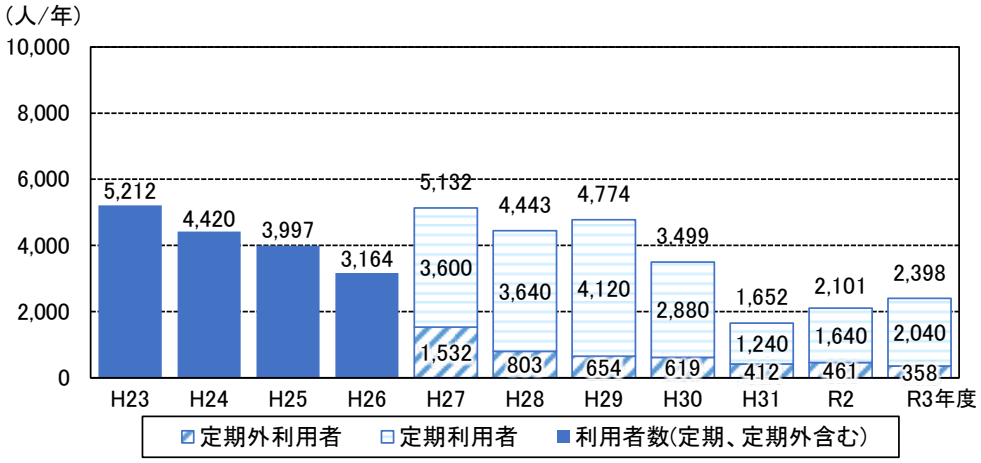
・利用者の大部分は海津明誠高校に通学する高校生ですが、年間利用者数の減少が著しく、特に定期利用が大きく減少しています。

・輪之内町や安八町から海津明誠高校への通学者数は、ここ数年減少していませんが、南北線を利用して通学する学生が減少していると想定されます。

・高校生アンケートによると、バスを利用していない理由としては「運賃が高い」が最も多くなっています。高校までの直通便を運行した場合の利用意向は、「毎日利用したい」が27%、「雨天時等、場合によっては利用したい」が43%となっています。

・中学生アンケートによると、「使いたい時間に運行していない」「運賃が高い」などが、公共交通の利用にあたって抵抗となっています。

図表 4-7　利用者数の推移



図表 4-8　定期券販売状況

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計	(前年比)
H27年度	6	1	0	9	6	4	14	2	3	8	13	24	90	
H28年度	1	3	1	17	5	1	31	1	1	18	9	3	91	(1.01)
H29年度	17	7	3	20	2	0	22	4	1	6	15	6	103	(1.13)
H30年度	6	6	8	12	3	0	16	4	1	4	6	6	72	(0.70)
R1年度	3	2	3	0	0	0	9	1	0	1	9	3	31	(0.43)
R2年度	0	3	0	7	2	0	0	7	5	1	5	11	41	(1.32)

2人が1ヶ月定期券、4人が3ヶ月定期券を購入した場合
2(人)×1(月)＋4(人)×3(月)＝14(人･月)

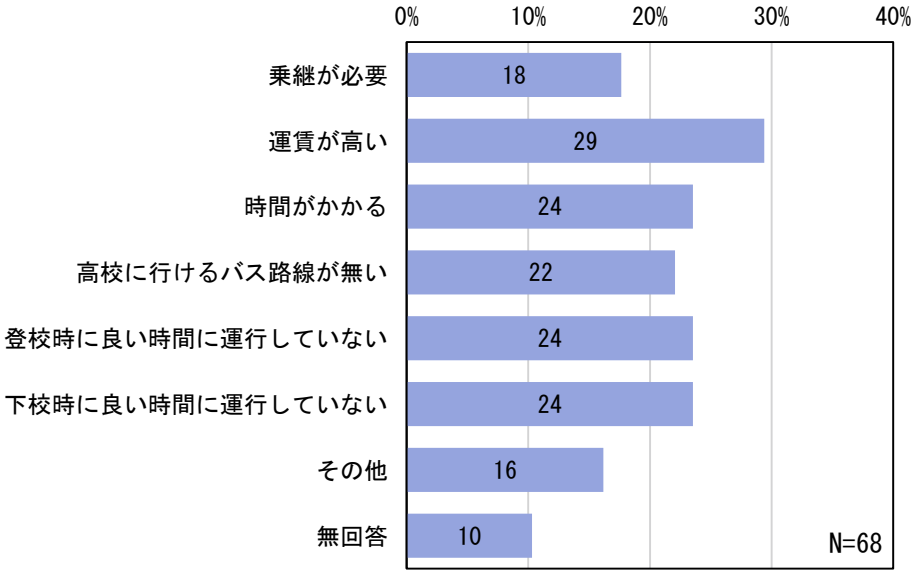
図表 4-9　中学生進学先の推移

年度	大垣方面	岐阜･羽島方面	海津方面	その他	計
H27	46(45%)	27(26%)	21(21%)	8(8%)	102
H28	51(55%)	10(11%)	23(25%)	9(10%)	93
H29	39(41%)	16(17%)	25(27%)	14(15%)	94
H30	58(49%)	19(16%)	26(22%)	16(13%)	119
H31	52(51%)	22(22%)	11(11%)	16(16%)	101
R2	42(46%)	18(20%)	14(15%)	17(19%)	91

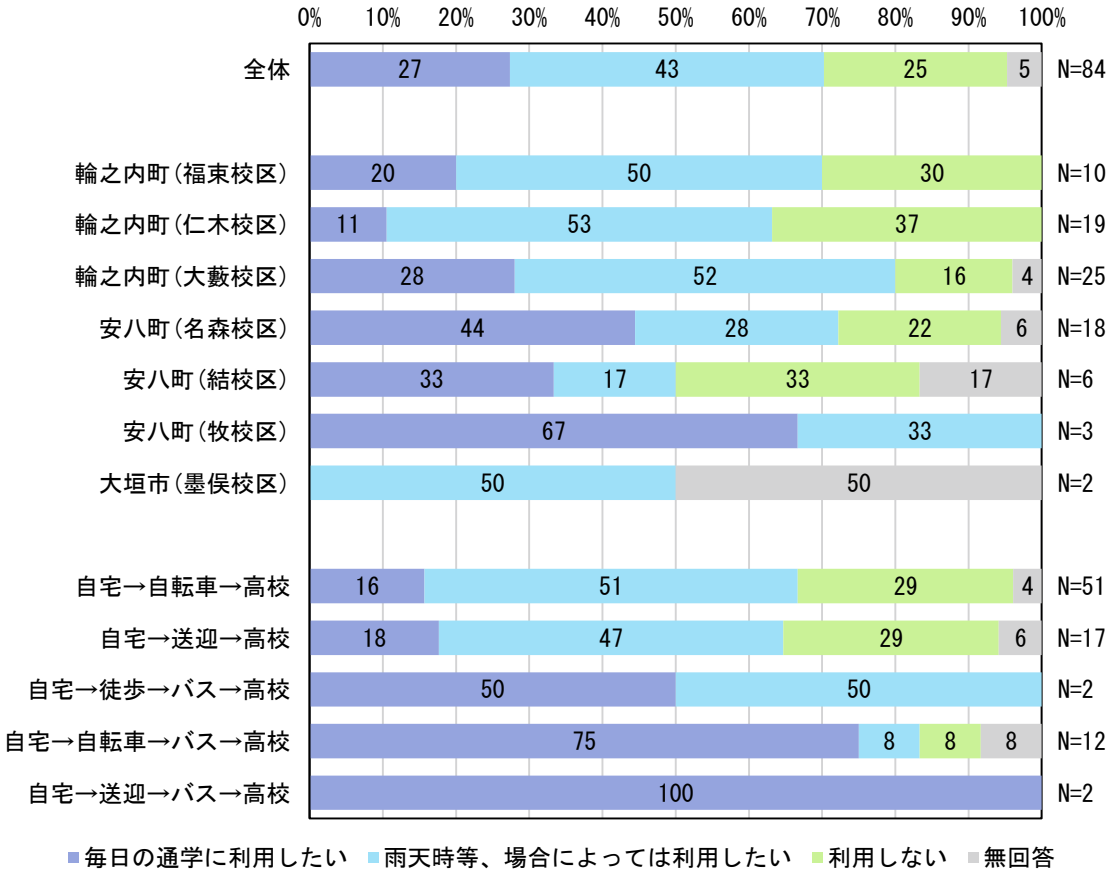
図表 4-10　安八郡（輪之内町・安八町・神戸町）から海津明誠高校への通学者数の変化

H27	H28	H29	H30	H31	R2
75人	81人	74人	87人	98人	84人

図表 4-11　バスを利用していない理由（高校生アンケート）



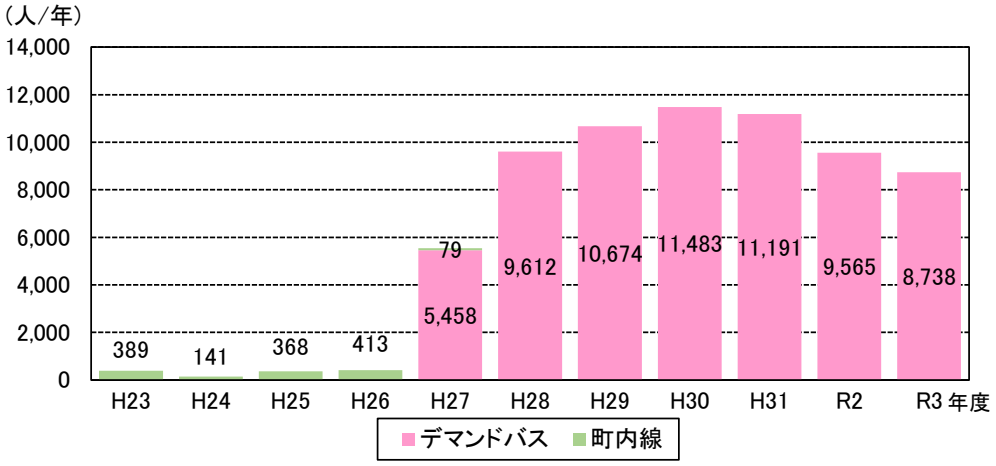
図表 4-12　直通バスの利用意向（高校生アンケート）



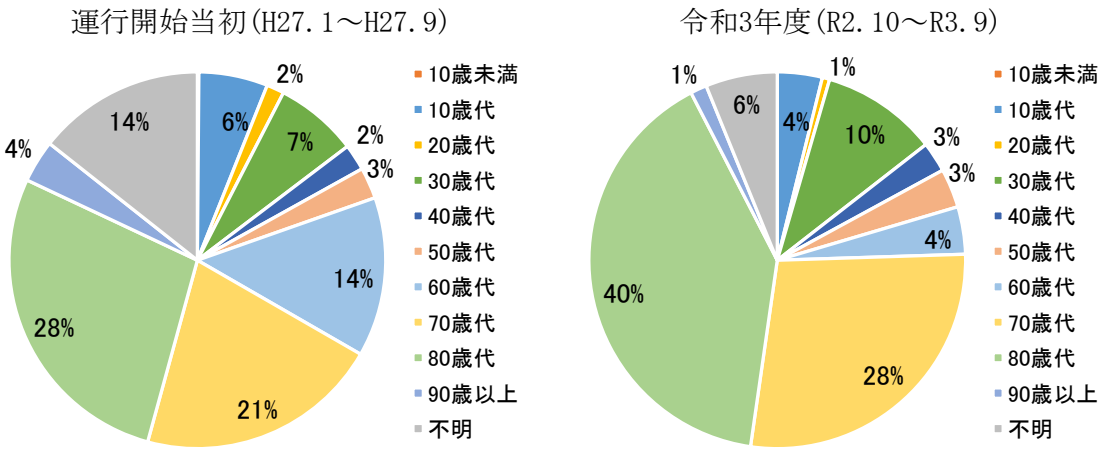
4.2.4 輪之内町デマンドバス

- 運行開始以降、利用者数は増加が続いていましたが、2019年度(平成31年度)は減少傾向となっています。
- 利用者に占める70歳以上の割合は徐々に高くなっており、利用者の高齢化が進んでいます。さらなる高齢化により高頻度利用者が利用しなくなることにより、利用者数が減少することが懸念されています。
- 利用登録者のうち65%は、一度もデマンドバスを利用していません。特に75歳以上で未利用の割合が高くなっていることから、運行開始時点で75歳以上の方全員に送られた登録証が活用されていないと考えられます。
- ワークショップにおいて、町外の病院（大垣市民病院、羽島市民病院、海津医師会、西美濃厚生病院など）への直通バスを希望する意見がありました。また、周辺市町でデマンド型交通を導入している自治体との連携を希望する意見もありました。

図表 4-13　利用者数の推移



図表 4-14　利用者の年齢層の変化



図表 4-15　利用登録者の年齢別利用状況

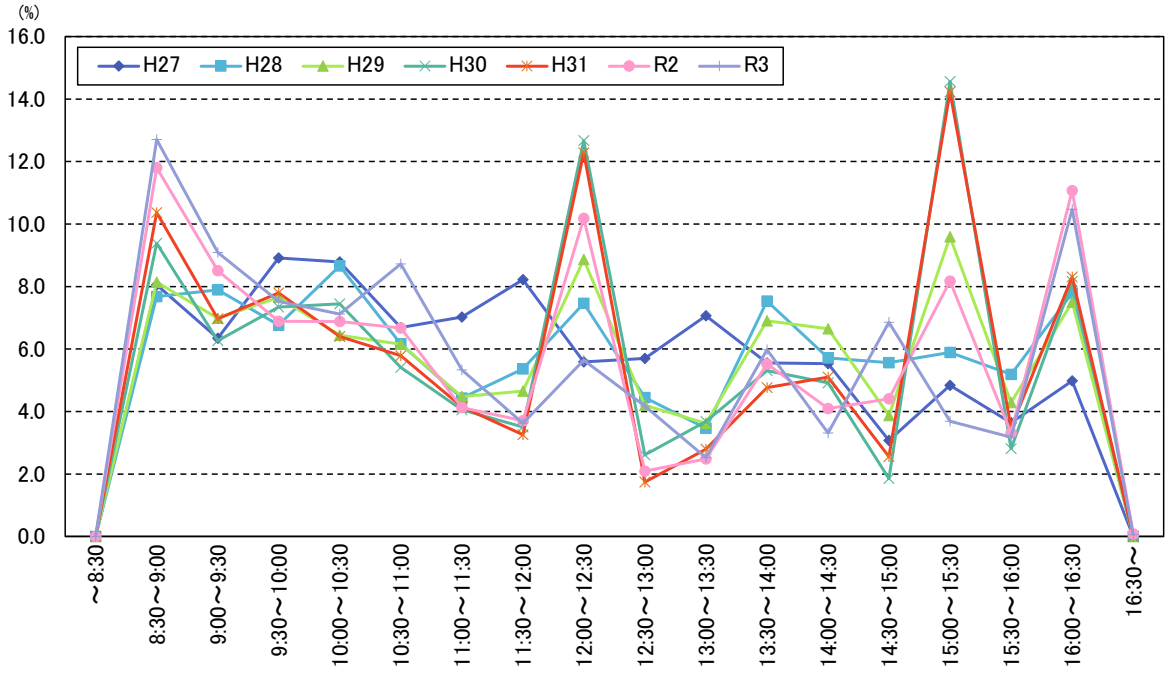
		利用回数									未利用	利用	合計	未利用者の割合
		0回	1～9回	10～19回	20～29回	30～39回	40～49回	50～99回	100～199回	200回以上				
利用者登録時点の年齢	10歳未満	11	11	8	1	1	1	2	0	0	11	24	35	31%
	10～14歳	25	16	18	2	1	0	0	2	0	25	39	64	39%
	15～19歳	21	38	15	11	1	2	9	3	1	21	80	101	21%
	20歳代	13	9	5	1	2	0	2	1	0	13	20	33	39%
	30歳代	23	11	2	0	0	1	1	2	4	23	21	44	52%
	40歳代	32	8	2	3	1	0	2	0	2	32	18	50	64%
	50歳代	35	14	2	0	2	1	0	2	3	35	24	59	59%
	60～64歳	24	15	4	2	0	0	2	4	4	24	31	55	44%
	65～69歳	44	26	5	4	0	1	5	2	7	44	50	94	47%
	70～74歳	48	31	6	6	3	0	8	2	11	48	67	115	42%
	75～79歳	283	35	8	4	3	5	10	13	21	283	99	382	74%
	80～84歳	190	31	9	6	6	3	10	11	12	190	88	278	68%
	85～89歳	139	7	3	1	2	1	4	1	5	139	24	163	85%
	90歳以上	70	1	0	0	0	0	1	1	1	70	4	74	95%
合計		958	253	87	41	22	15	56	44	71	958	589	1,547	62%

・利用者からは「時間帯によって予約が取りにくい」という意見があります。

・利用が集中する時間帯は8:30～9:00、12:00～12:30、15:00～15:30の3回です。8:30～9:00は医療施設や商業施設、駅など多様な目的に利用され、12:00～12:30はその帰宅としての利用が多くなっています。15:00～15:30は安八温泉からの帰宅利用が多くなっています。

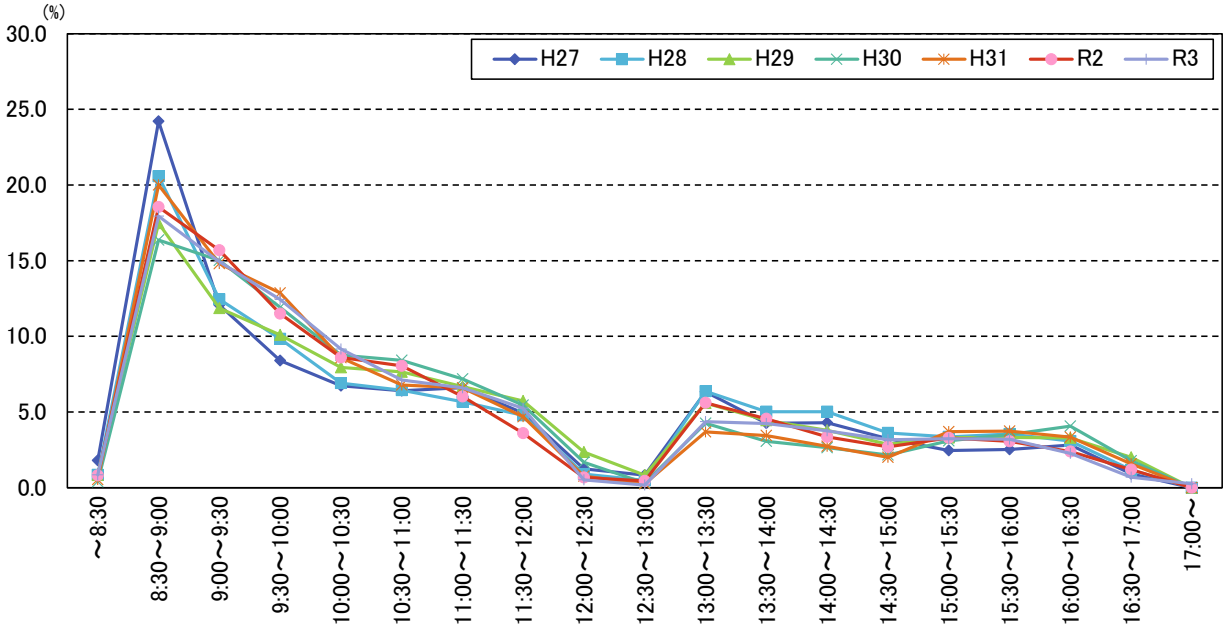
・運行開始当初から、運行時間延長や土日運行の要望があります。この要望を受けて、2020年(令和2年)7月より半年間、最終降車時間を16:30から18:00に延長する実証実験を実施しましたが、延長時間帯の利用者は0.1人/日未満と非常に少なく、需要が見込めないことから本格運行は見送りました。

図表 4-16　利用時間帯の分布



・朝に予約の電話が集中する傾向にあり、一部の時間帯で予約の電話がつながりにくくなっています。
・利用者からは「電話がなかなかつながらない」というご意見があります。また、3日前からの予約受付の繰り上げ、予約締切時間乗車1時間前の短縮などの要望もあります。

図表 4-17　予約電話時間帯の分布



4.2.5 公共交通に関する住民の意向

(1) 公共交通を利用しない人の意向

・住民の8～9割はふだんから公共交通を利用せず、自動車で移動をしています。

・ふだん自動車を利用している方には、「公共交通は自分が使うものではない」と感じている方がいます。一方、高齢者や学生のいる世帯では、公共交通の充実を希望している方もいます。

・バスに乗車してみようと思うきっかけとなるようなイベントや特典などの取り組みが期待されています。

(2) より移動が困難な方への対応

・公共交通は、自分である程度移動できる人を利用者として想定していますが、「足が悪く停留所までの移動も厳しいため利用できない」といった意見もあります。

・外出することなく、買い物等の目的を済ませるような新たな取り組みを希望する意見もあります。

(3) わかりやすさ

・デマンドバスの運行は広く認知されつつありますが、集落内停留所の詳細な場所が分からないという意見があります。また、デマンドバスの運行エリアや行ける施設を知りたいという意見があります。

・電話をかけるまで予約が取れるか分からないため、インターネット上での予約状況の確認や予約を希望する意見があります。

・デマンドバスの車両がわかりづらいという意見があります。

・通学定期券購入補助や運転免許証自主返納者支援について、まだ十分に周知されていません。

・目的地によっては、他市町のバスへの乗継をお勧めしていますが、その乗継方法や運賃がわかりづらいという意見があります。

(4) 待合環境・乗り継ぎ環境の整備

・町自主運行バスの停留所は、岐阜羽島駅北口駅前広場の西側にあります。名鉄新羽島駅、羽島市コミュニティバス、海津市コミュニティバスの停留所から離れており、利用者にとって分かりづらいレイアウトとなっています。

・輪之内羽島線やデマンドバスから名鉄への乗継に不便という意見がありました。

・岐阜羽島駅の自主運行バスの停留所に上屋やベンチ等の整備を希望する意見がありました。

・町内の停留所周辺に街灯がなく、人通りも少ないため、安全面から不安を感じているという意見がありました。

・町内の停留所への駐輪場の整備や便利の設置要望がありました。

第5章 地域公共交通の課題

前章までに整理した現況や各種調査結果等により、本町における課題は次のように考えられます。

課題１　多様な移動ニーズへの対応

・本町は、朝夕が町外への通勤・通学移動が多く、昼間時は高齢者を中心とした買い物・通院等の移動が多いという行動特性があります。
・行政界をまたがって運行している路線においては、周辺市町と協議・連携を図りながら、見直しや改善を図る必要があります。

図表 5-1　各路線の課題

路線名	課題
輪之内線	・運賃負担の軽減 ・最終便の繰り下げ ・増便
輪之内羽島線	・運賃負担の軽減 ・昼間の運行 ・増便
南北線	・海津市コミュニティバスとの乗継利便性の向上 ・運行時間の再考
輪之内町デマンドバス	・運行時間帯の拡大、土日祝日の運行 ・予約受付時間の拡大 ・インターネット予約への対応 ・周辺市町の総合病院へのアクセスの確保

課題２　利用しやすくなる情報提供の充実・環境の整備

(1) ハード整備

・公共交通の利用にあたって、バス停までの移動手段やバスの待合環境がネックとなっている人がいるため、安全、快適に待機できる空間の整備が必要です。

(2) 運賃負担の軽減

・公共交通の定期代は、特に学生が利用する際に大きな負担となることから、負担軽減する取り組みの継続・拡充が必要です。

(3) 情報提供の充実

・公共交通ガイドの更新や持ち運びに便利なポケット版の作成、公共交通の利用状況や利用方法を周知するチラシの配布など、さまざまな情報提供を定期的に実施してきました。利用者の属性や目的によって、知りたい情報が異なることから、対象を限定したより詳細な情報提供が必要です。

課題３　住民意識の醸成

・多くの住民は自動車での移動を主としていますが、家族のためや自身の今後のため、公共交通の維持、充実に関して肯定的な意見を持つ方が多数いらっしゃいます。
・今後も利用者だけでなく、利用していない方にも、公共交通についてご理解いただき「守っていくもの」という意識を醸成していく必要があります。
・公共交通をより身近なものと感じていただけるよう、公共交通への関心や理解を深めていく必要があります。

課題４　持続可能な公共交通の確保

・少子高齢化、人口減少の中では、本町の財源も縮小が想定されており、公共交通にかけられる経費が限られるまたは削減する必要が出てくる可能があります。
・バスやタクシー等の運転手の高齢化、新たな担い手の不足により、サービス向上を望んでも運転手不足により実施できない場合もあります。
・限られた財源、限られた人材の中で、より多くの人の利便性が上がるよう、効率的な公共交通ネットワークの構築が必要です。

課題５　まちづくりとの連携

・輪之内町都市計画マスタープランでは、「更なる利便性の向上を図るため、公共交通の運行体制の見直しを検討し、デマンドバスは、周辺都市や大都市との連携を促進するため、今後も広域的な運行路線の充実を推進します。」と示されています。
・公共交通は、通勤・通学・買い物・通院等の移動手段だけでなく、まちの賑わいづくりや観光の活性化、定住促進、健康増進、交通事故の抑制、家族送迎負担の軽減など、まちづくり分野における様々な活動を支える機能を担っています。
・これらの機能をさらに高めるためには、利用者の移動圏域に応じて周辺市町と連携した取り組みが求められます。周辺の大垣市、羽島市、海津市、養老町及び交通まちづくりとの連携を強化し、住民や来訪者が多様な目的で快適に移動しやすい公共交通を整備する必要があります。

第6章 計画の基本的な考え方

6.1 上位・関連計画における公共交通の位置づけ

輪之内町地域公共交通計画の上位計画・関連計画においては、次のような理念や方針等が掲げられています。

輪之内町第六次総合計画　（令和4年度～令和13年度：10年間）

●まちづくりの将来像

『自然と住みやすさが共存でき　子どもがのびのびと育つまち』

●まちづくりの基本目標

1．環境にやさしく快適なまちづくり
2．助け合いのある安心・安全なまちづくり
3．みんなが健やかに働けるまちづくり
4．みんなが元気に参画できる、交流と多様性のあるまちづくり
5．生きがいを持ち、いきいきと学ぶことのできるまちづくり
6．豊かさとつながりのあるまちづくり

●公共交通の施策の方向性

「基本目標６　豊かさとつながりのあるまちづくり」において、6-2交通機関（公共交通）に関する施策が示されています。

・ワークショップの開催
　利用者数の向上，新規利用者の確保，デマンドバス等のわかりやすい利用説明の機会の創設，高齢者や学生、移動が困難な方への交通手段の検討　等
・ＩＣＴ技術の活用等による利便性の向上
・バス停や営業時間の見直し
・各路線の運行本数の増加や運行時間の延長など、運行事業者及び沿線市町との協議

輪之内町都市計画マスタープラン　（令和4年度～令和13年度：10年間）

●まちづくりの将来像

『自然と住みやすさが共存でき　子どもがのびのびと育つまち』

●５つの視点

(1)居住環境からの視点：居住環境の維持・向上による定住人口の確保
(2)産業からの視点：産業の発展による地域の活性化
(3)交通・交流からの視点：安心・安全で快適な交通環境の整備
(4)自然・文化からの視点：恵まれた自然環境の保全と歴史・文化の継承
(5)安全・安心からの視点：災害に強いまちづくりの推進

●まちづくりの目標

1．快適に住み続けられるまちづくり
2．活力にあふれ、賑わいのあるまちづくり
3．誰もが快適に移動できるまちづくり
4．自然・文化に囲まれた魅力あるまちづくり
5．災害に強く、安全・安心なまちづくり

●安全・安心で快適な交通環境の整備の方針

・超高齢社会にも対応した利便性の向上、快適に移動できる公共交通機関の充実を図る。
・デマンドバス等自主運行バスは、周辺都市や大都市との連携を促進するため、今後広域的な運行路線の充実を推進する。

※令和4年2月9日現在の記載内容です。輪之内町第六次総合計画と輪之内町都市計画マスタープランは令和3年度中に策定予定の為、変更があり次第改訂します。

第２次輪之内町まち・ひと・しごと創生総合戦略　（令和2年度～令和6年度：5年間）

●基本目標：

基本目標１　安心して子どもを生み育てやすい環境づくり
基本目標２　輪之内町への人の流れをつくり、安定した雇用を創出する
基本目標３　誰もが健康で安心して暮らすことができる環境をつくる
基本目標４　広域連携による魅力あるまちづくり

●公共交通に関する事業

〔基本目標１．安心して子どもを生み育てやすい環境づくり〕

・高校生バス定期券購入支援事業：通学で輪之内線及び南北線、輪之内羽島線を利用する高校生に対し、購入したバスの定期券の３分の１を町が補助する。子育て世代の経済的負担を軽減する。

〔基本目標２．輪之内町への人の流れをつくり、安定した雇用を創出する〕

・公共交通対策事業：公共交通を利用することにより、輪之内町に訪れやすくするために自主運行バスを幅広くわかりやすく広報する。また、自主運行バスの利用率向上にもつなげる。

〔基本目標３．誰もが健康で安心して暮らすことができる環境をつくる〕

・デマンドバス利用料金助成事業：公共交通機関が脆弱な当町において、高齢者（65歳以上）の移動手段を確保するため、デマンドバスの料金を半額助成すること、併せて当町の公共交通網の維持を図る。

6.2 計画の基本理念（将来像）

上位・関連計画、地域公共交通に関する課題を踏まえ、本町の地域公共交通が目指す基本理念（将来像）及び公共交通の担う（果たす）べき役割を以下のように設定します。

ずっと住み続けられるまちの一翼を担う
公共交通ネットワークの維持・構築

【地域公共交通の担うべき役割】

・町外への通勤、通学手段を確保すること
・移動制約者が自由に外出できる環境を整えるとともに、外出するきっかけを創出し、健康の増進に寄与すること
・鉄道駅等交通結節点までのアクセスを確保し、周辺市町等との交流を活性化すること

6.3 計画の基本方針と目標

目指す基本理念のため、本計画では３つの基本方針を定め、各事業に取り組みます。

基本方針１　多様なニーズに対応するサービスの提供

目標１－１　町外につながる路線の維持

■町外とつながるバス路線の維持及びサービス拡充を目指すとともに、鉄道や他のバス路線に乗り換える移動者のため、大垣方面・岐阜方面・名古屋方面へのアクセス向上を図ります。

目標１－２　移動制約者がおでかけに困らないサービスの提供

■自動車運転免許証を持たない人がおでかけに困らないよう、デマンドバスの運行を維持するとともに、必要に応じてサービスの向上に努めます。

■公共交通ではカバーしきれないニーズへの対応は、福祉政策との連携を図ります。

基本方針２　利用促進に向けた取り組みの推進

目標２－１　公共交通の認知度の向上

■住民に対して公共交通の情報を提供するなど利用促進策を図り、公共交通の認知度向上、新たな需要を創出します。

目標２－２　利用しやすい環境の整備

■住民や来訪者が気軽に利用できるよう、ICT（情報通信技術）等を活用した情報の提供や利用環境の整備に取り組みます。

基本方針３　持続可能な公共交通の構築

目標３－１　住民意識の醸成

■公共交通をとりまく状況を理解いただき、地域全体で守っていくという意識を醸成します。

目標３－２　関係者間の連携強化

■住民、交通事業者、商業施設、医療施設、周辺市町等と連携し、関係者が一体となって地域公共交通を支え合う環境づくりに努めます。

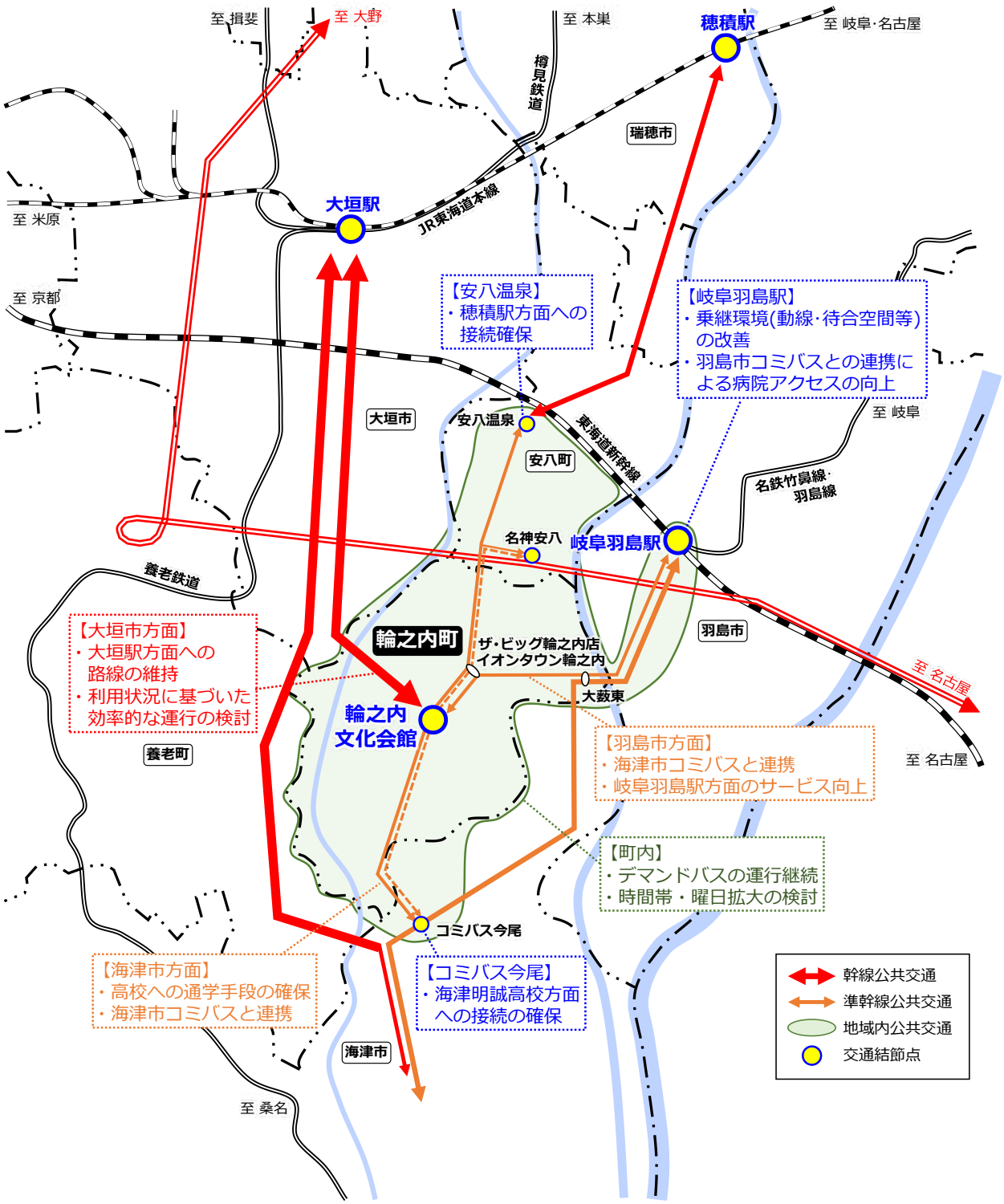
目標３－３　まちづくりとの連携

■輪之内町都市計画マスタープランと連携しまちづくりと一体となった地域公共交通ネットワークを形成します。

6.4 目指す公共交通ネットワーク

本計画で目指す地域公共交通ネットワークのイメージは以下の通りです。

図表 6-1　公共交通ネットワークのイメージ



機能分類

分類	位置付け・役割	対象
幹線公共交通	・都市の骨格形成に寄与するネットワークで、都市間の広域移動を担う。	[名阪近鉄バス] ・輪之内線 ・海津線 ・安八穂積線 ・にしみの高速線(実証運行中)
準幹線公共交通	・基幹公共交通を補完するネットワークで、周辺市町との相互移動も担う。	[輪之内町自主運行バス] ・輪之内羽島線 ・南北線 [海津市コミュニティバス] ・海津羽島線
地域内公共交通	・居住地と主要施設（公共施設，商業施設，医療施設など）を結び、日常生活における移動を担う。	[輪之内町デマンドバス]
個別輸送	・公共交通ではカバーしきれない、細かい移動ニーズに対応する。 ・公共交通の利用が困難な方の移動ニーズに対応する。	タクシー 福祉輸送・外出支援
交通結節点	・各階層の公共交通ネットワークを結び付け、公共交通機関相互を連携させるとともに、円滑な乗り継ぎのための機能、拠点形成機能等を有する。	・輪之内文化会館 ・岐阜羽島駅 ・大垣駅 ・穂積駅

第7章 目標達成のために行う事業

7.1 事業と実施主体

本計画の目標を達成するため、実施する事業と実施主体は以下のとおりです。

基本方針・目標			事業		事業主体			
					町	事業者	住民	周辺市町
基本方針１　多様なニーズに対応するサービスの提供								
目標1-1	町外につながる路線の維持		1-1	海津線・輪之内線の見直し	○	○		○
			1-2	海津市コミュニティバスの町内区間への停留所設置	○	○		○
			1-3	回送便の実車化による南北線の増便	○	○		○
目標1-2	移動制約者がおでかけに困らないサービスの提供		1-4	デマンドバスの時間延長・土日運行	○	○		
			1-5	福祉的な観点からの移動支援	○			
基本方針２　利用促進に向けた取り組みの推進								
目標2-1	公共交通の認知度の向上		2-1	公共交通ガイドブックの作成・更新	○			
			2-2	地区別停留所詳細図の作成	○		○	
			2-3	体験乗車会の開催・お試し乗車券の配布	○	○	○	
			2-4	利用目的に応じたPRの実施	○			
目標2-2	利用しやすい環境の整備		2-5	高齢者専用回数券の発行	○	○		
			2-6	高校生通学定期購入補助の実施	○			
			2-7	運転免許証自主返納者支援事業の実施	○			
			2-8	ICT技術の活用	○	○		
			2-9	先進的な取り組みの調査・研究	○	○		
			2-10	町内バス停の待合環境の整備	○		○	
			2-11	岐阜羽島駅北口駅前広場の改善	○	○		○
基本方針３　持続可能な公共交通の構築								
目標3-1	住民意識の醸成		3-1	住民意見等を反映する仕組みの構築	○		○	
目標3-2	関係者間の連携強化		3-2	輪之内町地域公共交通会議の開催	○			
目標3-3	まちづくりとの連携		3-3	各種計画との連携	○			

基本方針１　多様なニーズに対応するサービスの提供

事業１－１　海津線・輪之内線の見直し

【事業概要】

・本町から大垣駅方面へのサービス向上のため、地域間幹線路線及びその周辺路線も含めて、より効率的な広域ネットワークの構築を目指して、周辺市町や関係機関と協議を行います。

【事業期間】

・2020年度（令和2年度）から周辺市町等と協議。調整がつき次第実施。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者、海津市、養老町、大垣市

事業１－２　海津市コミュニティバスの町内区間への停留所設置

【事業概要】

・海津市コミュニティバス海津羽島線に大薮東停留所を設置し、大薮地区から岐阜羽島駅への乗車機会を拡大します。

輪之内羽島線
大薮東バス停周辺写真

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）中に予定されている海津市コミュニティバスの路線再編に合わせて設置。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者、海津市

事業１－３　回送便の実車化による南北線の増便

【事業概要】

・南北線は海津明誠高校への通学利用に特化したダイヤ設定で、朝は南行き、夕方は北行きのみの運行となっており、各便とも運行の前後に回送が生じています。

・回送の一部を実車化し、町内や海津市北部から名古屋方面や大垣方面への通勤にも対応できるサービスを提供することで、新たな利用者層の拡大を図ります。

【事業期間】

・2020年度(令和2年度)から関係者と協議。調整がつき次第実施。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者、安八町、海津市

事業１－４　デマンドバスの時間延長・土日運行

【事業概要】

・運行時間の拡大や土日運行の要望があることから、需要や利用状況を把握し、需要に応じた運行日や運行時間帯の見直しを行います。

【事業期間】

・2020年度(令和2年度)から需要や利用状況等を応じて、実施を検討。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者

事業１－５　福祉的な観点からの移動支援

【事業概要】

・路線バスやデマンドバスでは移動が困難な住民のため、外出支援サービスの対象範囲の拡大、サービス利用回数の見直しを行います。

・フレイル予防教室、オレンジカフェわのうち等の健康長寿や住民交流を目的とした事業等に参加しやすくなるよう、デマンドバスの配車等移動手段に関する支援策を強化します。

【事業期間】

・2022年度(令和4年度)からの実施に向けて関係課と調整中。調整がつき次第実施。

【事業主体】

・輪之内町、輪之内町地域包括支援センター

基本方針２　利用促進に向けた取り組みの推進

事業２－１　公共交通ガイドブックの作成・更新

【事業概要】

・2015年(平成27年)の路線再編時に作成以降、デマンドバスの停留所追加等に合わせて軽微な変更のみ実施してきました。

・住民から、文字サイズに対する要望や鉄道時刻表の追加などの要望があることから、掲載内容の再検討、再構成を行います。

・乗り継ぎ利用の可能性がある周辺市町の路線情報も掲載を検討します。

輪之内町公共交通
利用ガイド表紙

【事業期間】

・令和4年度　　：ガイドブック改訂版の作成

・令和5年度以降：令和5年4月に配布予定。以降、ダイヤ改正等にあわせて適宜見直し。

【事業主体】

・輪之内町

事業２－２　地区別停留所詳細図の作成

【事業概要】

・デマンドバス停留所の詳しい位置が分かる地区別マップを作成します。

・各地区から商業施設や医療施設、公共施設等への行き方を案内するとともに、医療施設の電話番号などを掲載します。

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）に、地区別停留所詳細図を作成。以降、施設等の状況に合わせて、定期的に見直しを実施。

【事業主体】

・輪之内町、住民

事業２－３　体験乗車会の開催・お試し乗車券の配布

【事業概要】

・公共交通を利用したことのない人の利用のきっかけづくりとして、路線バスやデマンドバスの体験乗車会を開催します。

・乗車会の参加者には、実際にバスに乗車いただくためお試し乗車券を配布します。

・高齢者から小学生まで、幅広い層を対象に行い、公共交通の状況やご意見等をお聞きする場としても活用します。

令和3年度配布お試し乗車券（新型コロナウイルスワクチン接種券に同封）

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）以降、毎年度継続開催。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者、住民

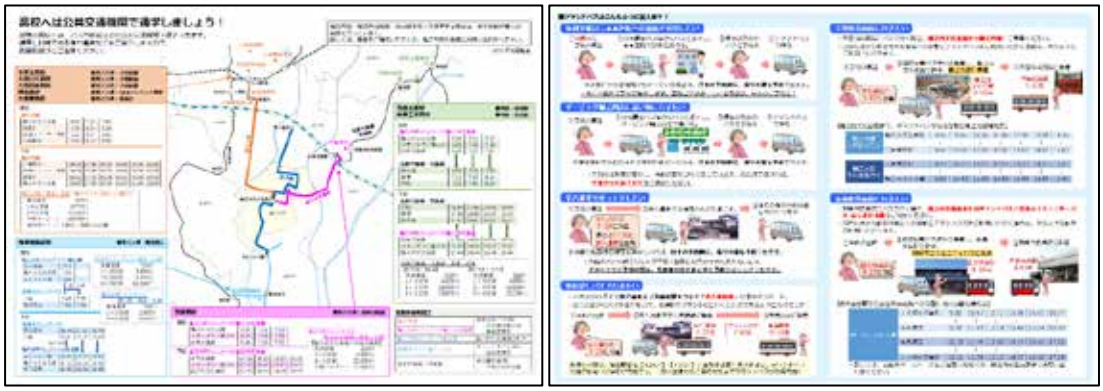
事業２－４　利用目的に応じたPRの実施

【事業概要】

・より町の公共交通に関心を持っていただけるよう、PRする対象者を明確に想定したチラシ等を作成します。

・対象者ごとにより効果的に情報を届けるため、SNSやケーブルテレビなどPR方法の多様化を進めます。

中学生	高校までの所要時間 実際に乗車すると良い路線・便 高校までの運賃・定期代
通勤者	大垣駅や岐阜羽島駅までの利用方法
高齢者	大垣市民病院、羽島市民病院、西美濃厚生病院などへの行き方・運賃 周辺市町の温泉等への行き方・運賃



中学３年生向け周知用チラシ

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）以降、毎年度継続実施。

【事業主体】

・輪之内町

事業２－５　高齢者専用回数券の発行

【事業概要】

・高齢者専用回数券の販売により、利用者数は大きく増加しました。

・町福祉課と連携して実施している高齢者専用回数券の購入費の補助を今後も継続していきます。

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）以降、毎年度継続実施。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者

事業２－６　高校生通学定期購入補助の実施

【事業概要】

・保護者の経済的負担軽減と公共交通の利用促進を目的として実施している、高校生バス通学定期券補助金交付（2019年（平成31年）4月開始）を今後も継続していきます。

・対象者の拡大（大学生や中学生）や対象路線の拡大要望に対応します。

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）以降、毎年度継続実施。

【事業主体】

・輪之内町

事業２－７　運転免許証自主返納者支援事業の実施

【事業概要】

・運転免許証を自主返納等された方に対し、公共交通の利用促進を目的として実施している運転免許証自主返納者支援事業（2019年(平成31年)4月開始）を今後も継続していきます。

【事業期間】

・2022年度(令和4年度)以降、毎年度継続実施。

【事業主体】

・輪之内町

事業２－８　ICT技術の活用

【事業概要】

・全国で利用できる交通系ICカードやQRコードなどのキャッシュレス決済を順次導入します。

・輪之内線において、福東大橋周辺の渋滞により遅延が発生することから、遅延情報やバスの運行位置をリアルタイムに配信するバスロケーションシステムを導入します。

・デマンドバスの予約電話をかける際、事前に予約の空き状況が確認できるようにするため、デマンドバスの予約状況を確認できるシステムを導入します。

・2021年(令和3年)9月より行った実証実験を踏まえて、2022年(令和4年)1月より本格実施となるデマンドバスのインターネット予約受付のサービスを拡充します。

ネット予約システム
ログイン画面

【事業期間】

・2022年度(令和4年度)以降、実施可能なものから導入。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者

事業２－９　先進的な取り組みの調査・研究

【事業概要】

・近隣市町村においてAIやICT等を活用した先進的な実例を調査し、視察等を行います。

・本町において実現可能なサービスや、利便性向上につながる技術等については、積極的に導入を検討します。

・これまでの走行データを分析した上で、以前より要望のある福祉施策としての利用も含め、包括的かつ経済性・利便性を考慮した活用及び交通体系の見直し等、地域の事情にあった次世代公共交通を目指していきます。

【事業期間】

・2022年度(令和4年度)以降、継続して検討。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者

事業２－１０　町内バス停の待合環境の整備

【事業概要】

・快適なバスの待合環境を目指し、利用の多いバス停等を中心に上屋やベンチ、駐輪場等の整備を進めます。

・デマンドバス停留所については、雨天時に軒先をお借りする等、住民の皆さんにも協力いただき、地域全体で使いやすい停留所づくりを目指します。

【事業期間】

・2022年度(令和4年度)以降、候補箇所が挙げられた場合は実施。

【事業主体】

・輪之内町、住民

事業２－１１　岐阜羽島駅北口駅前広場の改善

【事業概要】

・「同一方面に向かうのに東西に乗り場が分かれているという、わかりにくさを解消」「岐阜方面への移動で名鉄へ乗継する利用者の利便性向上」「待合環境の改善」などのため、羽島市や関係機関と連携して駅前広場の改善を図ります。

岐阜羽島駅構内の乗り場案内図
（羽島市作成）

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）に乗り場番号による案内を開始。

・2022年度（令和4年度）以降も継続して検討を行い、調整ができ次第実施。

【事業主体】

・輪之内町、交通事業者、羽島市

基本方針３　持続可能な公共交通の構築

事業３－１　住民意見等を反映する仕組みの構築

【事業概要】

・住民懇談会（ワークショップ）を開催し、地域の課題やニーズ等の把握を行います。

・地元からの意見や情報を収集する機会として、体験乗車会等を実施します。

ワークショップの様子
（令和3年度開催）

【事業期間】

・2022年度（令和4年度）以降、毎年度継続的に開催。
（年間3回のワークショップ開催）

【事業主体】

・輪之内町、住民

事業３－２　輪之内町地域公共交通会議の開催

【事業概要】

・町、運輸支局、県、道路管理者、交通事業者、公安委員会、学識者、地域住民で構成された輪之内町地域公共交通会議において、地域における需要に応じた住民の生活に必要な交通手段の確保その他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現に必要となる事項を協議・検討します。

【事業期間】

・毎年度2回以上開催（回数は必要に応じて増加する）

【事業主体】

・輪之内町

事業３－３　各種計画との連携

【事業概要】

・輪之内町第6次総合計画、輪之内町都市計画マスタープラン、第2次輪之内町まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂等がある場合、輪之内町地域公共交通計画にも反映させます。

【事業期間】

・2022年度(令和4年度)以降、必要に応じて随時対応実施。

【事業主体】

・輪之内町

7.2 事業スケジュール

各事業の実施スケジュールは以下のとおりです。

事業			事業スケジュール				
			令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
基本方針１　多様なニーズに対応するサービスの提供							
	1-1	海津線・輪之内線の見直し	検討・調整		調整がつき次第実施		
	1-2	海津市コミュニティバスの町内区間への停留所設置	検討	実施			
	1-3	回送便の実車化による南北線の増便	検討・調整	調整ができたものから順次実施	次第実施		
	1-4	デマンドバスの時間延長・土日運行	検討・調整	必要に応じて、随時調整がつき次第実施 利用状況等を踏まえ実施			
	1-5	福祉的な観点からの移動支援	検討・調整		調整がつき次第実施		
基本方針２　利用促進に向けた取り組みの推進							
	2-1	公共交通ガイドブックの作成・更新			継続して実施		
	2-2	地区別停留所詳細図の作成	新規作成		継続して実施		
	2-3	体験乗車会の開催・お試し乗車券の配布			継続して実施		
	2-4	利用目的に応じたPRの実施			継続して実施		
	2-5	高齢者専用回数券の発行			継続して実施		
	2-6	高校生通学定期購入補助の実施			継続して実施		
	2-7	運転免許証自主返納者支援事業の実施			継続して実施		
	2-8	ICT技術の活用		調整ができたものから順次実施			
	2-9	先進的な取り組みの調査・研究			継続して検討		
	2-10	町内バス停の待合環境の整備		必要に応じて、随時実施			
	2-11	岐阜羽島駅北口駅前広場の改善		検討・調整	調整がつき次第実施		
基本方針３　持続可能な公共交通の構築							
	3-1	住民意見等を反映する仕組みの構築			継続して実施		
	3-2	輪之内町地域公共交通会議の開催	■　■	■　■	■　■	■　■	■　■
					毎年度２回以上開催		
	3-3	各種計画との連携			必要に応じて、随時実施		

第8章 計画の達成状況の評価

8.1 評価指標の設定

本計画の基本的な方針を実現するため、目標に応じた評価指標を以下のように設定します。

評価指標１　各路線の利用者数	基準値（R2）	目標値（R7）
各路線の利用者数		
輪之内羽島線	7,978 人	8,000 人
南北線	2,101 人	2,200 人
輪之内町デマンドバス	9,565 人	11,000 人
計	19,644 人	21,200 人
■算出方法 ・使用データ：事業者提供の実績データ（年度＝10 月～9 月区切り）		

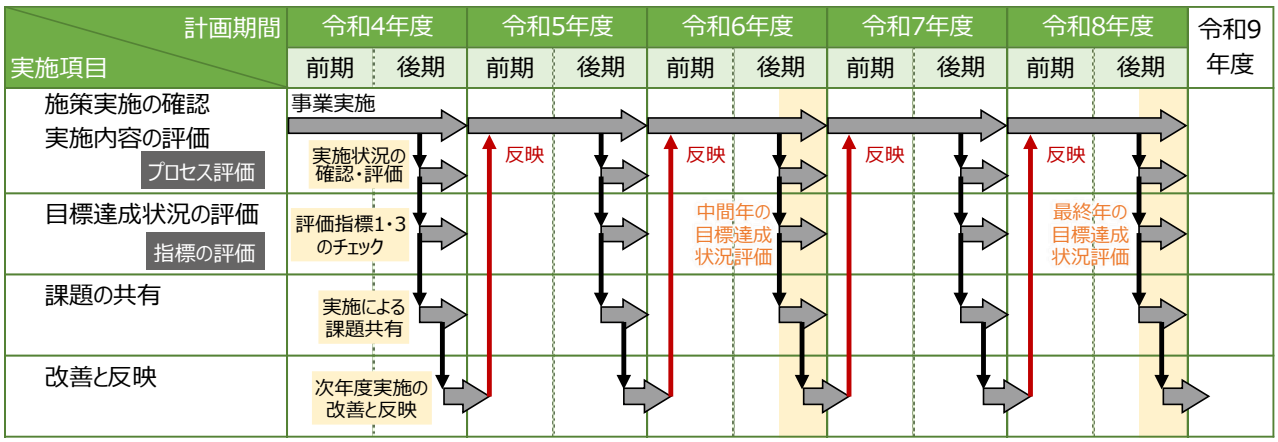
評価指標２　公共交通利用者数の割合	基準値（R2）	目標値（R7）
外出時に月 1 回以上バスを利用する人の割合	5.7%	6.0%
■算出方法 ・使用データ：住民アンケート ・調査方法　：広報折込で町内全戸にアンケート調査を実施 ・調査時期　：令和６年（計画中間年）、令和８年（計画最終年）の７月頃 ・算出方法　：各路線の利用頻度について質問し、月１回以上利用している割合を算出する。 ※対象：輪之内線，輪之内羽島線，南北線，輪之内町デマンドバス		

評価指標３　人口 1 人あたりの年間負担額	基準値（R2）	目標値（R7）
人口 1 人あたりの年間負担額	3,673 円/人	3,750 円/人
■算出方法 ・使用データ：公共交通の運行にかかる年間負担額の総額（年度＝10 月～9 月区切り） 住民基本台帳人口データ（評価年の 10 月 1 日現在） ・算出方法　：年間負担額の総額を人口で除して算出する。		

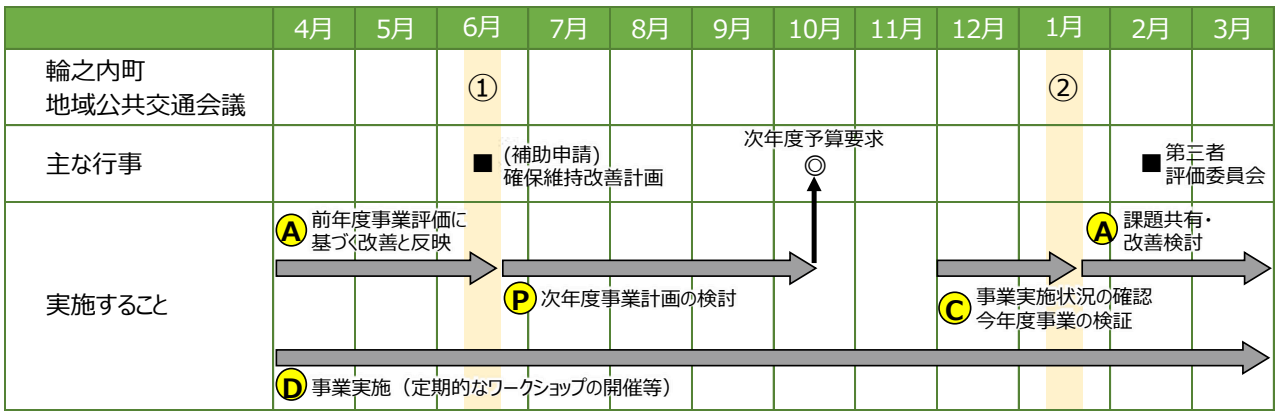
8.2 計画の進行管理と評価スケジュール

本計画は、ＰＤＣＡサイクルの考え方に基づき、毎年実施した事業や目標の達成状況について評価を行い、必要に応じて計画や事業内容を見直し、その結果を計画や次年度の事業に反映させ、計画の進行を管理します。

図表 8-1　計画期間中のスケジュール

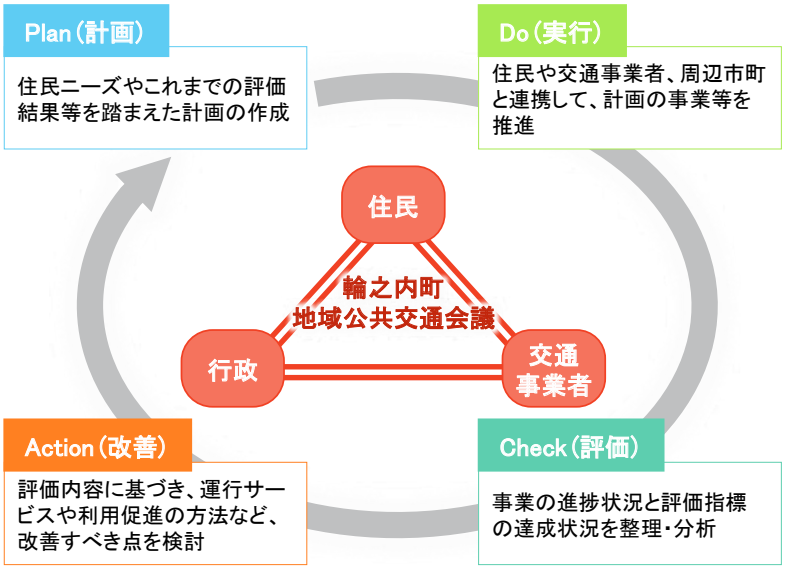


図表 8-2　年間スケジュール



ＰＤＣＡサイクルとは

・Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善・見直し）のサイクルを回し、計画の進行管理を行う仕組みです。
・本計画を推進するため。行政、交通事業者、住民等の関係者が連携・協力していきます。



輪之内町地域公共交通計画
（令和４年度～令和８年度）

発行月　令和４年３月
発　行　輪之内町　住民課